

名張市における
令和5年度全国学力・学習状況調査

結果・分析と今後の取組

令和5年9月
名張市教育委員会

調査開始後15回目（17年目）を迎え、本年4月18日に、市内の小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒を対象に行われた「全国学力・学習状況調査（以下「全国学調」）」の結果について、本市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等調査の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施するものです。なお、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。これらのことを十分考慮し、今後の名張市の学校教育の一層の充実を図ってまいります。

○調査実施年月日 令和5年4月18日（火）

○調査実施児童生徒数 ※当日実施数

小学校（全6年生14小学校）：616名

中学校（全3年生5中学校）：571名

1 各調査項目の平均正答率等の状況

単位（％）

令和5年度 調査項目	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
名張市 ※1	69	63	70	52	44
全国比 ※2	102.7	100.8	100.3	102.0	96.5
R4との比較	3.6	1.3	1.7	6.6	-7.1※3
三重県	67	62	69	51	45
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6

名張市 ≥ 全国・三重県

全国 > 名張市 ≥ 三重県
三重県 > 名張市 ≥ 全国

全国・三重県 > 名張市

※1 名張市平均・・・文科省から整数値（小数第一位を四捨五入）により結果提供

※2 全国比・・・全国平均を100としたときの名張市平均の割合（得点率）

※3 英語の前回調査は平成31年度

※英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計

<小学校>

本年度、国語と算数は全国平均・三重県平均を上回りました。また、前年度全国比との比較では、国語、算数ともにプラスとなりました。

<中学校>

本年度、国語、数学は全国平均・三重県平均を上回りました。また、前年度全国比との比較では、国語、数学ともにプラスとなりました。英語は、全国平均・三重県平均を下回り、前回全国比との比較ではマイナスとなりました。

＜無解答率の状況＞（経年変化）

本年度、小学校、中学校ともすべての教科の無解答率が全国平均より低く、よい傾向が見られます。昨年度、中学校ではすべての教科が全国平均より高い状態でしたが、大きく改善されました。児童生徒が諦めずに粘り強く取り組む様子が伺えます。

	調査項目	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		調査項目
		名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	
小学校	国語	4.62	4.62	4.36	4.31	4.21	3.76	5.99	6.21	3.5	4.34	5.5	5.7	3.43	4.84	国語
	算数	7.84	7.37	7.02	6.42	9.48	7.93	5.47	2.66	2.39	2.64	3.12	3.49	2.66	3.43	算数
	理科	—	—	—	—	1.46	1.21	—	—	—	—	3.62	3.58	—	—	理科
中学校	国語	2.92	4.39	2.17	3.8	1.96	3.01	1.86	2.64	3.52	4.36	4.31	4.26	4.08	4.59	国語
	数学	9.45	14.69	8.88	11.71	8.33	12.61	5.79	7.31	8.39	11.15	11.14	10.75	8.34	9.62	数学
	英語	—	—	—	—	—	—	4.27	5.99	—	—	—	—	5.53	5.69	英語
	理科	—	—	—	—	3.36	5.04	—	—	—	—	4.03	3.44	—	—	理科

■ 無解答率が全国と同じか低い ■ 無解答率が全国より高い

※全国比で表示(全国平均を100としたときの名張市平均の割合)

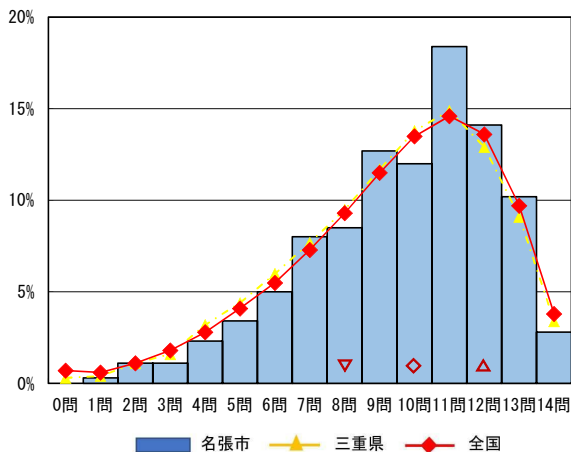


2 各調査項目の結果概要

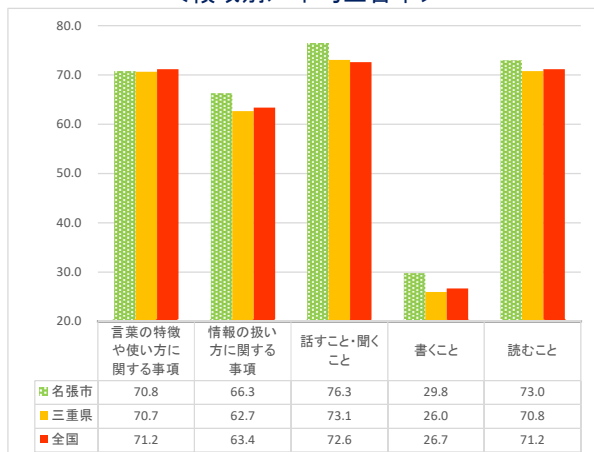
平均正答率…全国より良い傾向を(+)、そうでない傾向を(-)
無解答率…全国より良い傾向を(-)、そうでない傾向を(+)で表しています

小学校		国語		
	名張市	全国	差	
平均正答率	69	67.2	1.8	
無解答率	3.43	4.84	-1.41	

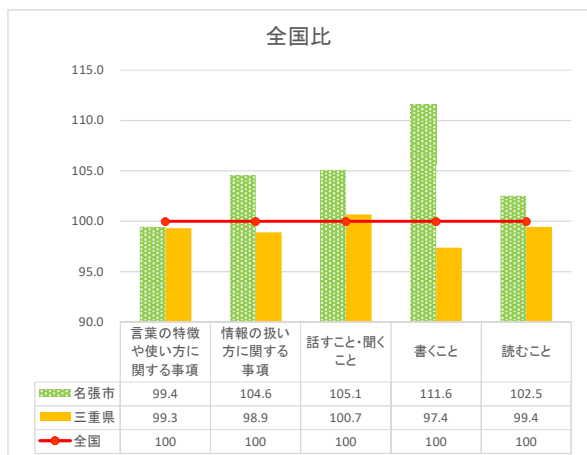
<平均正答数>



<領域別/平均正答率>



★領域別で見ると、名張市では「話すこと・聞くこと」が高く、次いで「読むこと」、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」、「情報の扱い方にに関する事項」、「書くこと」の順に低くなっている。



<正答率が高かった問題の概要>

1 三(2) 【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものと適切なものを選択する。(くらべて)

95.1% [言葉の特徴や使い方] [選択式]

2 一 【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する。

92.7% [読むこと] [選択式]

1 四 【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する。

79.2% [言葉の特徴や使い方] [選択式]

<正答率が低かった問題の概要>

1 二 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。

<問題の趣旨>

図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

29.8% [書くこと] [記述式]

1 三 【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。(いがい)

<問題の趣旨>

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

50.9% [言葉の特徴や使い方] [短答式]

<無解答率が高かった問題の概要>

3 二 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く。

11.4% [話すこと・聞くこと] [記述式]

<学習指導に当たって>

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと
エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

○伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも考えられる。

(1 二)

■学習指導要領における内容

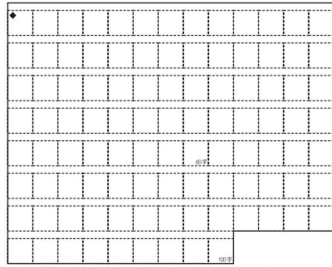
〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと
エ 話し手の目的や自分が聞くこととする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

○相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞くことができるように指導することが重要である。インタビューをする前に、自分が知りたいことや疑問に思っていることなどを整理したり、答えを予想したりしておくことも考えられる。その際、インタビューの進め方を友達と確認し合いながら吟味していくと効果的である。

(3 二)

令和5年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

国語 1 米作りについて解説する文章を書く



※上の星様用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらの行で行を変えないで、続けて書きましょう。

- (条件)
- 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。
- 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

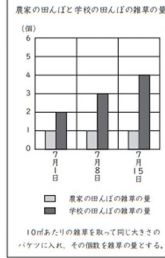
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにええを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがい雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、に学校の米作りに入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【カード①】

6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしょうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。
・どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしょうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

【川村さんの考え】
雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。



1 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

問題の趣旨

図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
(1 二)



学習指導に当たって

「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」

図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果などの事実の記述は、このような図表やグラフを用いる方が自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなる。本設問では、川村さんは、選んだカードを基に、グラフを示しながら学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしている。グラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが求められる。

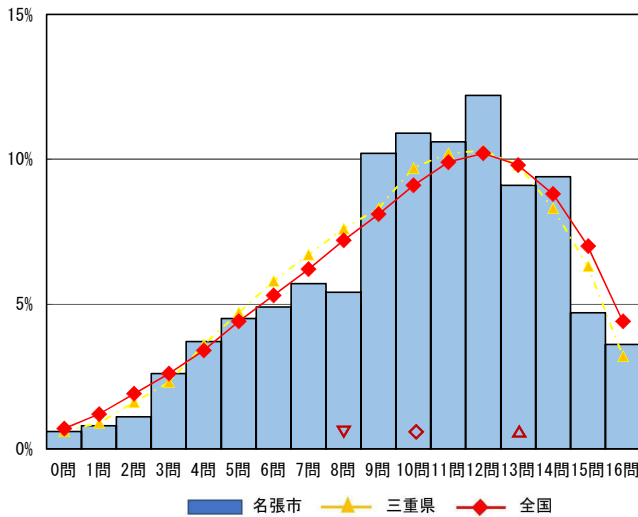
学習指導に当たっては、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも考えられる。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していくことが大切である。児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも考えられる。

【令和5年度全国学力・学習状況調査「報告書」より】

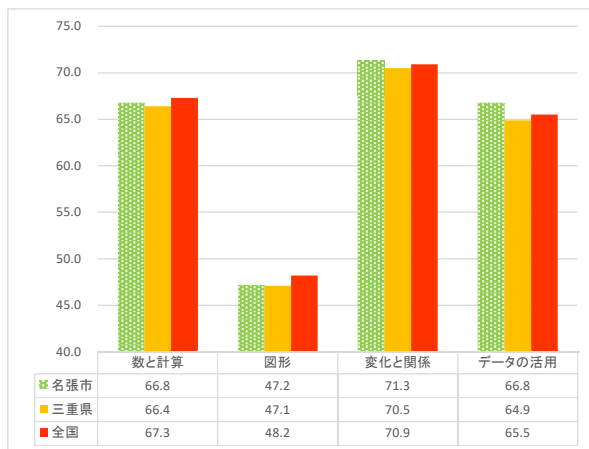
正答率 29.8%
無解答率 4.6%

小学校		算数		
	名張市	全国	差	
平均正答率	63	62.5	0.5	
無解答率	2.66	3.43	-0.77	

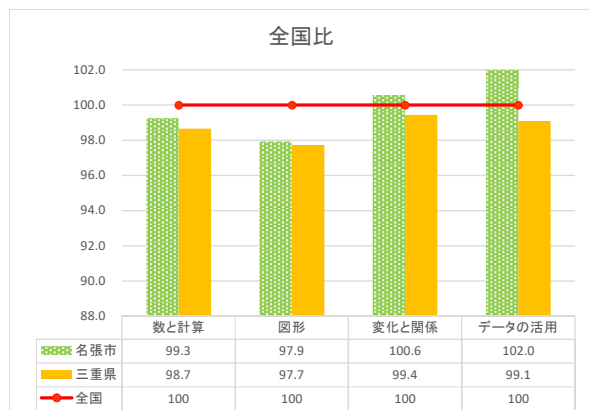
<平均正答数>



<領域別／平均正答率>



★領域別で見ると、名張市では「変化と関係」が高く、次いで、「数と計算」と「データの活用」、「図形」の順に低くなっている。



<正答率が高かった問題の概要>

- (1) 5脚の椅子を重ねたときの高さを求める。
94.0% [変化と関係] [短答式]
- (2) テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く。
91.1% [図形] [短答式]

- (2) 椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。
90.6% [変化と関係] [短答式]

<正答率が低かった問題の概要>

- (4) テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。

<問題の趣旨>

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

17.5% [図形] [記述式]

- (3) 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。

<問題の趣旨>

正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。

22.2% [図形] [短答式]

<無解答率が高かった問題の概要>

- (3) 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く。

12.5% [データの活用] [記述式]

<学習指導に当たって>

■学習指導要領における領域・内容〔第5学年〕B 図形

(3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

○図形を構成する要素や構成する要素の間の関係に着目して図形を観察したり、操作したりする活動を通して、図形の意味や性質を見いだしたり、それらの操作について、図形の意味や性質を基に考えたりできるようにすることが大切である。

(2 (4))

■学習指導要領における領域・内容

〔第3学年〕B 図形

(1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。

〔第5学年〕B 図形

(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。

○目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにすることが重要である。実際に正三角形や頂角の大きさが 120° の二等辺三角形をつくる活動が考えられる。

(2 (3))

算数 ② 図形の構成の仕方を観察して図形について判断すること(テープ)

(3) えいたさんたちは、下のようなつくり方で三角形をつくります。

【えいたさんのつくり方】

① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。

② 右の図のように、折り目はしを点ケとします。

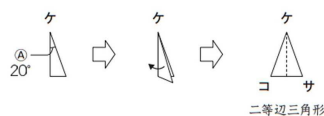
③ 折って重ねたまま、点ケを通るななめの直線で切ります。

④ 開くと三角形ができました。

ゆいさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の㊸の角の大きさをそれぞれがうが大きにしました。



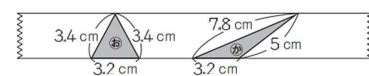
私は、㊸の角の大きさを 20° にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、㊸の角の大きさをゆいさんとちがう大きに切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、㊸の角の大きさを何度にすればよいですか。
答えを書きましょう。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

問題の趣旨

正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。(2 (3))

正答率 22.2 %
無解答率 2.4 %

問題の趣旨

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。(2 (4))

正答率 17.5 %
無解答率 3.6 %



学習指導に当たって

(3) について、「目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることができるようにする。」

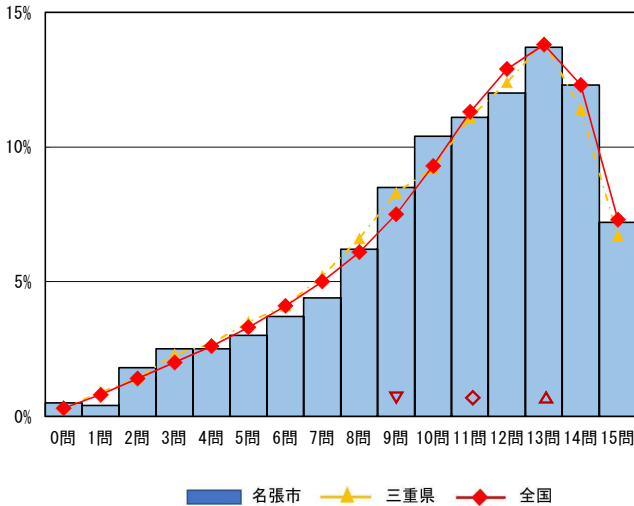
目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにすることが重要である。実際に正三角形や頂角の大きさが 120° の二等辺三角形をつくる活動が考えられる。その際、次のページの図のように、テープを折っての角の大きさを 20° などにして切ってできた直角三角形を切り開くと、頂角の大きさがそれぞれ何度になるのかを考えることができるようにすることが大切である。その上で、テープを切って開いてできた二等辺三角形の頂角の大きさはの角の大ききの2倍になるのではないかとことに気付き、正三角形をつくるためには、頂角の大ききを 60° の半分 30° にすればよいという見通しを立てることができるようにすることが大切である。

(4) について、「底辺と高さの關係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする。」

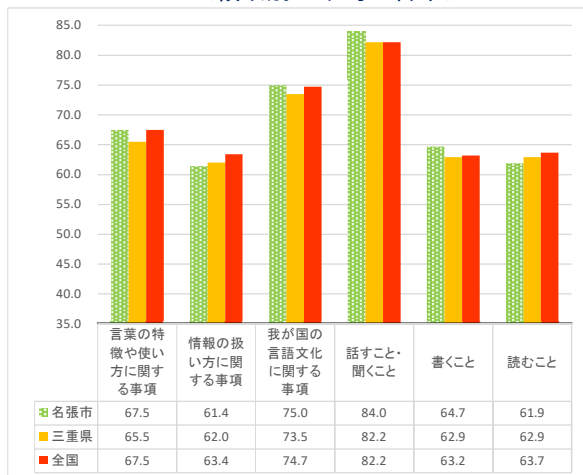
三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの關係に着目し、三角形の底辺や高さとも面積の關係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい、二つの平行四角形や、二つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。その際、等積変形で平行四角形を長方形に帰着させたとき、長方形の縦と横が、元の平行四角形の底辺と高さに対応することを理解できるようにすることが大切である。

中学校		国語		
	名張市	全国	差	
平均正答率	70	69.8	0.2	
無解答率	4.08	4.59	-0.51	

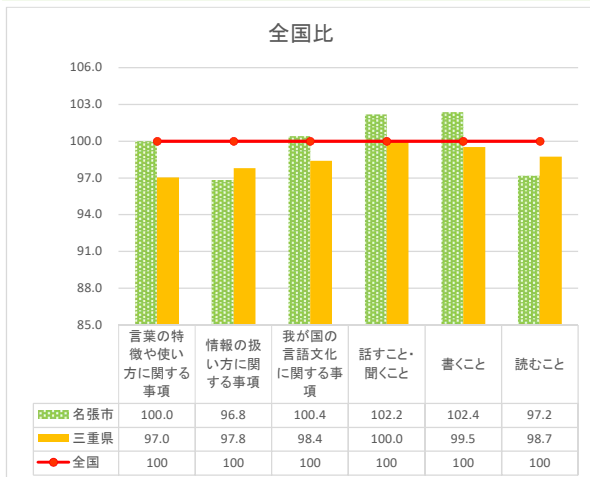
<平均正答数>



<領域別/平均正答率>



★領域別で見ると、名張市では「話すこと・聞くこと」が一番高く、次いで「我が国の言語文化に関する事項」、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」、「書くこと」、「読むこと」、「情報の扱い方にに関する事項」の順に低くなっている。



<正答率が高かった問題の概要>

- 2一 「落胆する」の意味として適切なものを選択する。
89.8% [言葉の特徴や使い方] [選択式]
- 1一 インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する。
88.2% [話すこと・聞くこと] [選択式]
- 1四 インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。
84.0% [話すこと・聞くこと] [記述式]

<正答率が低かった問題の概要>

- 3二 漢字を書く。(おし量って)
<問題の趣旨>
文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。
45.2% [言葉の特徴や使い方] [短答式]
- 2二 二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する。
<問題の趣旨>
観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる。
54.6% [読むこと] [選択式]

<無解答率が高かった問題の概要>

- 4三 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。
17.8% [読むこと] [記述式]

<学習指導に当たって>

■学習指導要領における内容
〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。《精査・解釈》

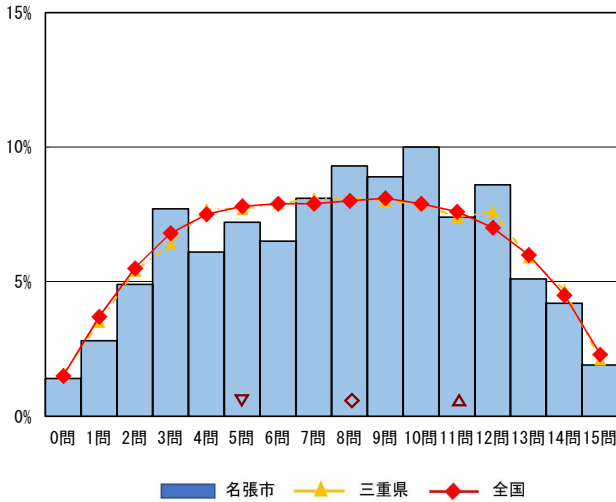
○説明的な文章において表現の効果について考える際には、文章で述べられている内容を確認した上で、文章のどの部分にどのような表現の工夫が見られるかを捉えることが必要である。その際、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが大切である。(2二)

■学習指導要領における内容
〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。《精査・解釈》

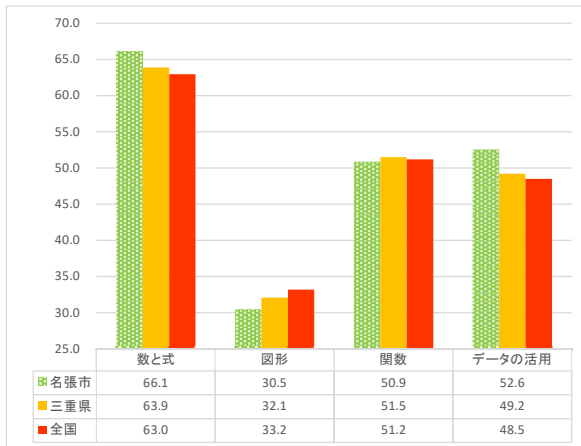
○生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむためには、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるよう指導することが大切である。例えば、教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などが考えられる。その際、古典の原文と比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうよう指導することが大切である。(4三)

中学校		数学	
	名張市	全国	差
平均正答率	52	51.0	1.0
無解答率	8.34	9.62	-1.28

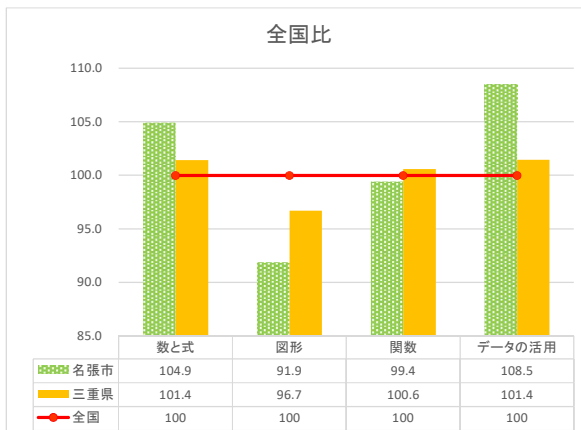
<平均正答数>



<領域別/平均正答率>



★領域別で見ると、名張市では「数と式」が一番高く、次いで「データの活用」、「関数」、「図形」の順に低くなっている。



<正答率が高かった問題の概要>

- 6 (1) はじめの数が11のとき、はじめの数にかけ
る数が2、たす数が3のときの計算結果を求める。
87.9% [数と式] [短答式]
- 2 $12(x/4 + y/6)$ を計算する。
83.2% [数と式] [短答式]

<正答率が低かった問題の概要>

- 3 空間における平面が1つに決まる場合について、
正しい記述を選ぶ。
25.6% [図形] [選択式]
- <問題の趣旨>
空間における平面が同一直線状にない3点で決定されることを理解
しているかどうかをみる。
- 9 (1) 2つの直線BCと直線AEが平行であることを
を、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が
等しいことを示すことで証明する。
29.9% [図形] [記述式]
- <問題の趣旨>
ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるか
どうかをみる。

<無解答率が高かった問題の概要>

- 6 (3) はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいく
くつであれば、計算結果はいつでも4の倍数にな
るかを説明する。
23.1% [数と式] [記述式]

<学習指導に当たって>

- 学習指導要領における領域・内容
〔第1学年〕B 図形
(2) 空間図形について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることが
できるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア) 空間における直線や平面の位置関係を知ること。
- 空間における平面が一つに決まる時の条件について、
観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解で
きるようにすることが大切である。本問を使って授業を行う
際には、空間における平面が一つに決まる条件として、「2
点を含む平面は一つに決まる。」や、「一つの直線上にあ
る3点を含む平面は一つに決まる。」など、条件として不
十分なものを取り上げ、平面が一つに決まるにはさら
にどのような条件が必要かを考察する活動を取り入れることが考
えられる。(3)

- 学習指導要領における領域・内容
〔第2学年〕B 図形
(1) 基本的な平面図形の性質について、数学的活動を通して、次の事項を身
に付けることができるよう指導する。
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ア) 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にして
それらを確認説明すること。
- 事柄が成り立つことを証明することができるようにするた
めには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く
推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大
切である。本設問を使って授業を行う際には、2直線が平
行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与え
られた条件から導く過程を考えるといった構想を立てる活
動を取り入れることが考えられる。(9 (1))

数学 9 平行線や角の性質を基に、図形を考察すること (合同な2つの三角形と平行線)

- 9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形 ABC と、 $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

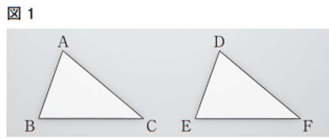
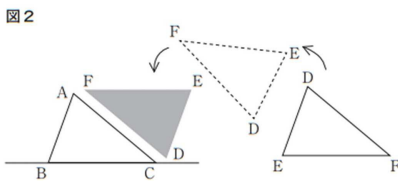


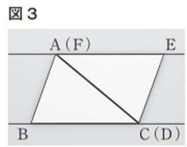
図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

- ◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 F を点 A に、点 D を点 C に重ねる。

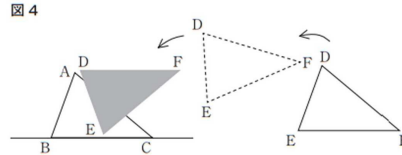


- ◇ 図3のように、点 A と点 F が重なった点を A として、直線 AE をひく。また、点 C と点 D が重なった点を C とする。

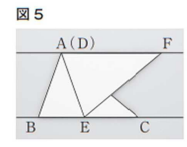


方法2

- ◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図4のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 D を点 A に、点 E を直線 BC 上に置く。ただし、点 E は点 B と重ならないように置く。



- ◇ 図5のように、点 A と点 D が重なった点を A として、直線 AF をひく。



優奈さんは、方法1の直線 BC と直線 AE 、方法2の直線 BC と直線 AF がそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線 BC と直線 AE が平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ です。

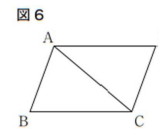


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

問題の趣旨

ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。(9(1))

正答率 29.9%
無解答率 21.7%



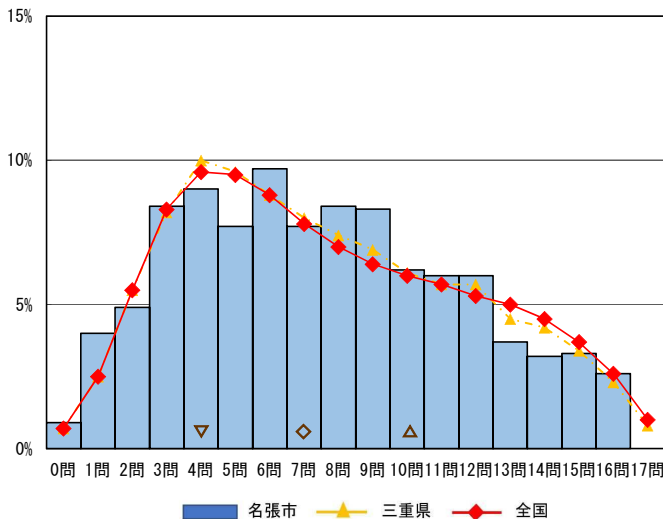
学習指導に当たって

「事柄が成り立つことについて、構想を立て、それに基づいて証明することができるようにする。」

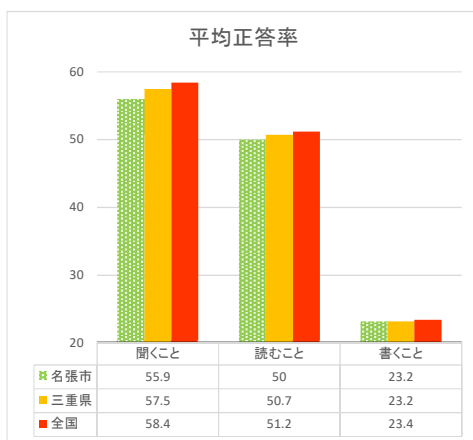
事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、2直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えると、構想を立てる活動を取り入れることが考えられる。例えば、直線 BC と直線 AE が平行になることを証明するためには、錯角である $\angle BCA$ と $\angle EAC$ が等しいことを示せばよいと考え、そのためには仮定である $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ が合同であることを基にすればよいといった証明の方針を確認することが考えられる。その上で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ から合同な図形の対応する角は等しいことを根拠として $\angle BCA = \angle EAC$ を示し、平行線になるための条件「錯角が等しい2直線は平行である」を根拠として、結論である「 $BC \parallel AE$ 」を示すことができるようにすることが大切である。

中学校		英語	
	名張市	全国	差
平均正答率	44	45.6	-1.6
無解答率	5.53	5.69	-0.16

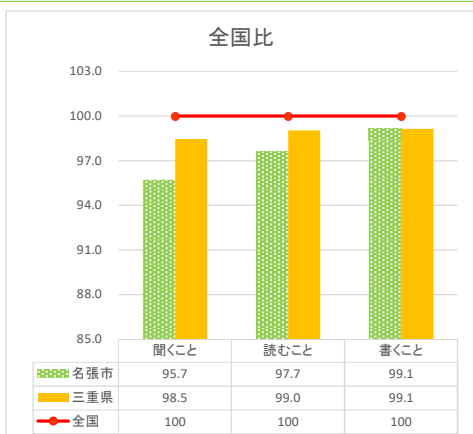
<平均正答数>



<領域別／平均正答率>



★領域別で見ると、名張市では「聞くこと」が一番高く、次いで「読むこと」、「書くこと」の順に低くなっている。



<正答率が高かった問題の概要>

1 (1) ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。

76.4% [聞くこと] [選択式]

1 (2) 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。

65.4% [聞くこと] [選択式]

<正答率が低かった問題の概要>

10 学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く。

<問題の趣旨>

日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

4.9% [書くこと] [記述式]

9 (1)② 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。

<問題の趣旨>

疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる。

20.7% [書くこと] [短答式]

<無解答率が高かった問題の概要>

8 (2) ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。

30.1% [書くこと] [記述式]

<学習指導に当たって>

■学習指導要領における領域・内容

書くこと

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

○テーマについてまとまりのある文章を書くためには、テーマについて事実や考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書くことが重要である。その際、テーマについて書く内容を想起できるようにすることや、伝えたい内容を読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を理解して文章を書くことができるように指導することが必要である。さらに、説明文を書く際には、「主題とその具体例」、意見文を書く際には、「最も伝えたいこととその理由」など、目的に応じて文章構成を判断するように指導することも大切である。(10)

■学習指導要領における領域・内容

書くこと

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

内容 (1)英語の特徴やきまりに関する事項

イ 符号


ウ 語、連語及び慣用表現

エ 文、文構造及び文法事項

○場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気付き、修正を加えながら正確さを高めていくことが必要である。(9 (1)②)

英語 8 短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書く

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I  could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

問題の趣旨

ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。(8(2))

(注) plate: 皿 even if ~: たとえ~だとしても
apartment: アパート agree with: ~に賛成する

正答率 16.7%
無解答率 30.1%



学習指導に当たって、
「**読んだことを基に自分の考えとその理由を書くことができるようにする。**」

読んだことを基に自分の考えとその理由を書く際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。指導に当たっては、以下のような言語活動に取り組むことが考えられる。

- ・教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などを、スピーチの形式や、新聞やホームページなどへの投稿文の形式で書く活動
- ・他教科等でも扱われる自然環境、世界情勢、科学技術、平和などの話題に関して読んだ内容を踏まえて、内容に関する感想、賛否やその理由などを書く活動

言語活動を行うに当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切である。また、書いた英文を推敲する際には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切な内容になっているか、正確に書くことができているかを指導する必要がある。内容や表現を改善していく上で、書いた英文に対して教師がフィードバックを与えたり、他の生徒からコメントをもらったりすることも大切である。

[令和5年度全国学力・学習状況調査「報告書」より]

3—① 児童生徒質問紙調査結果

「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。

ここでは、名張市平均を前回調査の令和4年度と比較したときの増減を矢印で、全国平均と比較したときの差を数値で示しています。

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

質問事項		年度			
		R4	増減	R5	
学習習慣等	家で自分で計画を立てて、勉強をしていますか(当てはまる)	名張市	25.0	↘	22.0
		全国	27.5		28.7
		全国との差	-2.5		-6.7
	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	20.1	↘	19.9
		全国	25.1		25.6
		全国との差	-5.0		-5.7
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	22.9	↘	19.2	
	全国	26.2		24.7	
	全国との差	-3.3		-5.5	
国語	国語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	23.2	↘	21.5
		全国	23.4		23.8
		全国との差	-0.2		-2.3
	国語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	46.4	↗	48.8
		全国	39.5		40.4
		全国との差	+6.9		+8.4
算数	算数の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	34.3	↘	27.9
		全国	36.2		34.8
		全国との差	-1.9		-6.9
	算数の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	51.0	↗	51.8
		全国	45.6		45.2
		全国との差	+5.4		+6.6
英語	英語の勉強は好きだ(当てはまる) 〔前回調査R3年度〕	名張市	31.9	↗	35.6
		全国	38.2		38.6
		全国との差	-6.3		-3.0
	英語の勉強は大切だ(当てはまる)	名張市	—		71.7
		全国	—		69.8
		全国との差			+1.9
授業改善	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(当てはまる)	名張市	30.5	-	30.5
		全国	30.5		30.5
		全国との差	0.0		0.0
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(当てはまる)	名張市	34.7	↗	39.7
		全国	37.7		38.6
		全国との差	-3.0		+1.1
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 (当てはまる)	名張市	32.1	↘	30.1	
	全国	33.2		31.0	
	全国との差	-1.1		-0.9	

質問事項		年度	R4	増減	R5
学習習慣等	家で自分で計画を立てて、勉強をしていますか(当てはまる)	名張市	16.2	↘	15.3
		全国	15.4		15.3
		全国との差	+0.8		0.0
	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	26.9	↘	26.2
		全国	35.2		33.7
		全国との差	-8.3		-7.5
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか ※学習塾や家庭教師含む (2時間以上勉強する)	名張市	34.4	↘	29.2	
	全国	44.9		40.0	
	全国との差	-10.5		-10.8	
国語	国語の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	20.1	↗	21.1
		全国	24.2		23.6
		全国との差	-4.1		-2.5
	国語の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	35.7	↘	26.5
		全国	31.9		30.4
		全国との差	+3.8		-3.9
数学	数学の勉強は好きですか(当てはまる)	名張市	33.1	↘	30.9
		全国	29.9		29.1
		全国との差	+3.2		+1.8
	数学の授業の内容はよく分かりますか(当てはまる)	名張市	46.0	↘	43.2
		全国	36.1		33.9
		全国との差	+9.9		+9.3
英語	英語の勉強は好きだ(当てはまる) 〔前回調査H31年度〕	名張市	32.0	↘	23.2
		全国	29.0		25.2
		全国との差	+3.0		-2.0
	英語の授業の内容はよく分かる(当てはまる) 〔前回調査H31年度〕	名張市	40.0	↘	30.2
		全国	29.5		28.0
		全国との差	+10.5		+2.2
授業改善	1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方, 教材, 学習時間などになっていましたか(当てはまる)	名張市	26.2	↘	25.8
		全国	22.8		22.6
		全国との差	+3.4		+3.2
	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(当てはまる)	名張市	37.4	↘	33.9
		全国	31.2		30.4
		全国との差	+6.2		+3.5
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか(当てはまる)	名張市	30.9	↗	32.6
		全国	34.1		34.3
		全国との差	-3.2		-1.7
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(当てはまる)	名張市	26.3	↗	27.0
		全国	25.6		23.1
		全国との差	+0.7		+3.9

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度			
		R4	増減	R5	
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか(当てはまる)	名張市	40.9	↗	43.5
		全国	42.5		44.3
		全国との差	-1.6		-0.8
I C T	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか(週1回以上)	名張市	92.3	↗	92.8
		全国	83.2		86.3
		全国との差	+9.1		+6.5
	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(役に立つと思う)	名張市	67.5	↗	69.7
		全国	65.5		67.5
		全国との差	+2.0		+2.2
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びに使う時間は除く)(全く使っていない)	名張市	—		31.7
		全国	—		26.4
		全国との差			+5.3
生活習慣	朝食を毎日食べていますか(当てはまる)	名張市	85.7	-	85.7
		全国	84.9		83.7
		全国との差	+0.8		+2.0
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(当てはまる)	名張市	35.6	↗	40.2
		全国	40.7		38.1
		全国との差	-5.1		+2.1
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(当てはまる)	名張市	54.2	↘	53.5	
	全国	56.8		55.1	
	全国との差	-2.6		-1.6	
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか(当てはまる)	名張市	62.0	↘	61.9
		全国	60.4		60.8
		全国との差	+1.6		+1.1
	自分には、よいところがあると思いますか(当てはまる)	名張市	35.1	↗	44.1
		全国	39.4		42.6
		全国との差	-4.3		+1.5
	先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う(当てはまる)	名張市	53.2	↗	59.3
		全国	46.3		49.9
		全国との差	+6.9		+9.4
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思う(当てはまる) 〔前回調査H31年度〕	名張市	65.7	↗	70.5
		全国	59.5		60.9
		全国との差	+6.2		+9.6
人が困っているときは、進んで助けていますか(当てはまる)	名張市	44.0	↗	46.3	
	全国	44.9		45.6	
	全国との差	-0.9		+0.7	
学校に行くのは楽しいと思う(当てはまる)	名張市	42.7	↗	45.4	
	全国	51.7		49.8	
	全国との差	-9.0		-4.4	

中学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度			
		R4	増減	R5	
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか(当てはまる)	名張市	44.4	↗	47.2
		全国	43.0		43.8
		全国との差	+1.4		+3.4
I C T	1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか(週1回以上)	名張市	95.5	↗	96.9
		全国	80.6		87.5
		全国との差	+14.9		+9.4
	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(役に立つと思う)	名張市	56.9	↗	66.8
		全国	56.7		58.7
		全国との差	+0.2		+8.1
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びに使う時間は除く)(全く使っていない)	名張市	—		24.0
		全国	—		34.3
		全国との差			-10.3
生活習慣	朝食を毎日食べていますか(当てはまる)	名張市	81.0	↗	81.2
		全国	79.9		78.6
		全国との差	+1.1		+2.6
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(当てはまる)	名張市	39.2	↘	34.6
		全国	37.0		34.7
		全国との差	+2.2		-0.1
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(当てはまる)	名張市	59.7	↘	55.3	
	全国	56.8		54.8	
	全国との差	+2.9		+0.5	
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか(当てはまる)	名張市	37.6	↗	39.1
		全国	39.8		39.4
		全国との差	-2.2		-0.3
	自分には、よいところがあると思いますか(当てはまる)	名張市	33.9	↗	36.1
		全国	36.0		37.2
		全国との差	-2.1		-1.1
	先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う(当てはまる)	名張市	46.2	↘	45.1
		全国	39.9		40.0
		全国との差	+6.3		+5.1
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思う(当てはまる) 〔前回調査H31年度〕	名張市	45.3	↗	48.9
		全国	37.3		43.7
		全国との差	+8.0		+5.2
人が困っているときは、進んで助けていますか(当てはまる)	名張市	34.3	↗	36.1	
	全国	40.6		38.4	
	全国との差	-6.3		-2.3	
学校に行くのは楽しいと思う(当てはまる)	名張市	39.2	↗	43.0	
	全国	45.8		43.3	
	全国との差	-6.6		-0.3	

小学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

質問事項		年度	R4	増減	R5
規範意識等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか (当てはまる)	名張市	86.4	↗	89.6
		全国	83.9		82.6
		全国との差	+2.5		+7.0
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか(当てはまる)	名張市	74.5	↗	80.4
		全国	75.1		75.3
		全国との差	-0.6		+5.1
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(当てはまる)	名張市	37.2	↘	28.6
		全国	35.5		33.4
		全国との差	+1.7		-4.8
地域貢献	今住んでいる地域の行事に参加していますか(当てはまる)	名張市	20.8	↗	25.0
		全国	23.4		24.3
		全国との差	-2.6		+0.7
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか (当てはまる)	名張市	14.9	↗	34.1
		全国	17.6		33.2
		全国との差	-2.7		+0.9
読書習慣	学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらい の時間、読書をしますか ※教科書参考書、漫画雑誌除く (30分以上)	名張市	31.0	↗	34.3
		全国	36.4		37.3
		全国との差	-5.4		-3.0

中学校

※数字は、質問のあとに記載の()内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R4	増減	R5
規範意識等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか (当てはまる)	名張市	82.5	↘	80.0
		全国	82.6		80.3
		全国との差	-0.1		-0.3
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか(当てはまる)	名張市	74.4	↘	68.9
		全国	73.5		71.7
		全国との差	+0.9		-2.8
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(当てはまる)	名張市	33.5	↘	30.0
		全国	32.5		31.2
		全国との差	+1.0		-1.2
地域貢献	今住んでいる地域の行事に参加していますか(当てはまる)	名張市	13.3	↘	11.9
		全国	14.3		12.2
		全国との差	-1.0		-0.3
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか (当てはまる)	名張市	8.7	↗	20.7
		全国	11.1		19.6
		全国との差	-2.4		+1.1
読書習慣	学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらい の時間、読書をしますか ※教科書参考書、漫画雑誌除く (30分以上)	名張市	21.2	↘	21.0
		全国	27.3		28.4
		全国との差	-6.1		-7.4

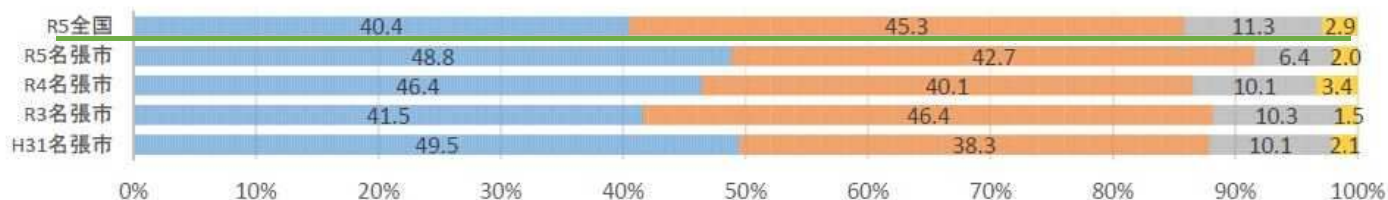
学校では

わかる授業のための授業改善に取り組んでいます。

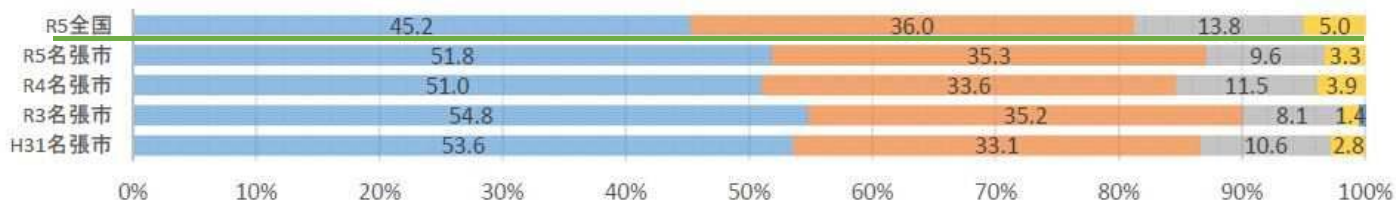
質問項目：授業の内容はよく分かりますか

■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

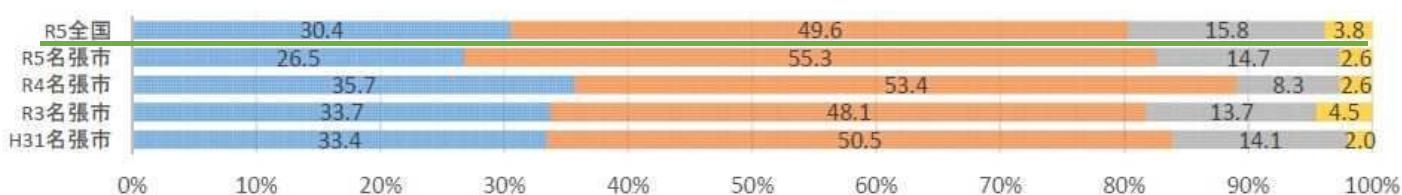
小学校国語



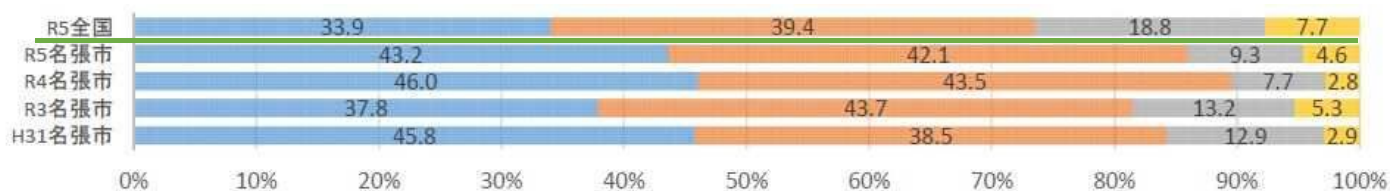
小学校算数



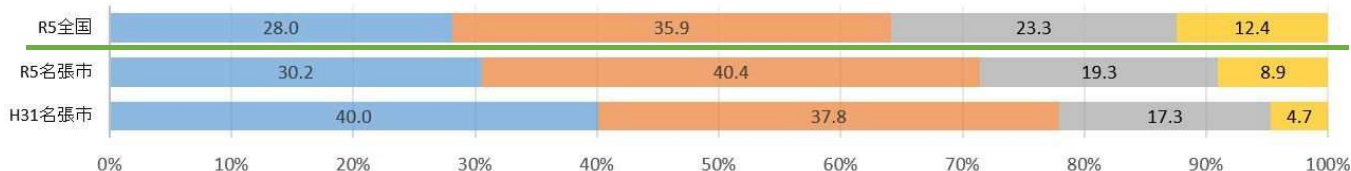
中学校国語



中学校数学



中学校英語



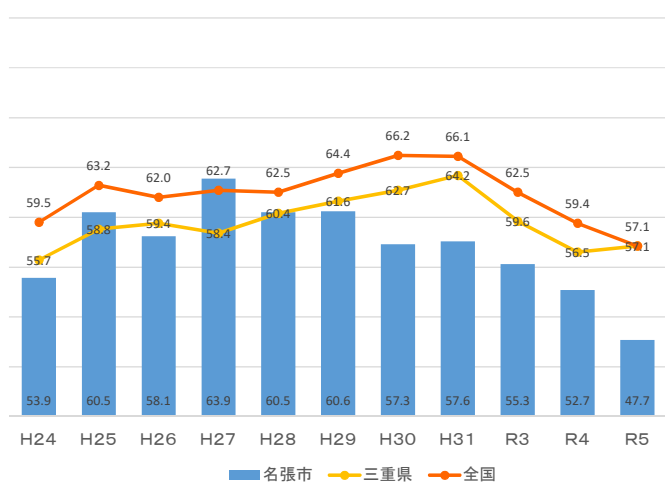
本市は肯定的な回答割合が、すべての教科で70%を越え、全国との比較においても高い結果がみられます。一方で、よく分からないと回答している児童生徒もいることから、子どもたちが「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」をより一層実感できる授業づくりに努め、主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図り、学力向上につなげます。

家庭では

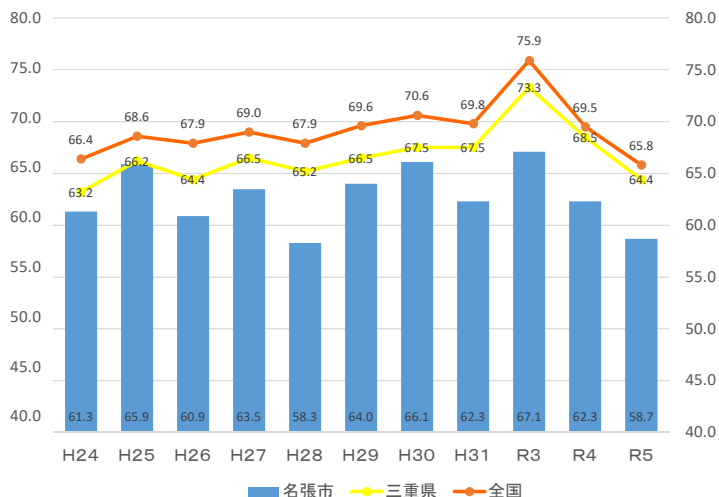
家庭学習や読書の習慣化に努める必要があります。

質問項目：1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(1時間以上)※学習塾、家庭教師含む

小学校 平日勉強

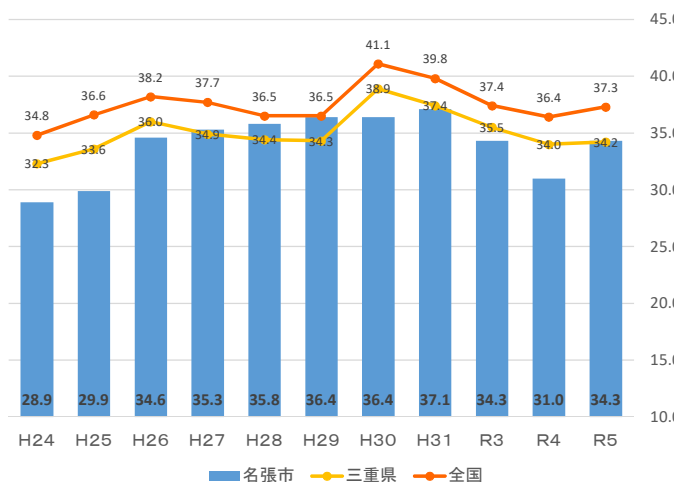


中学校 平日勉強

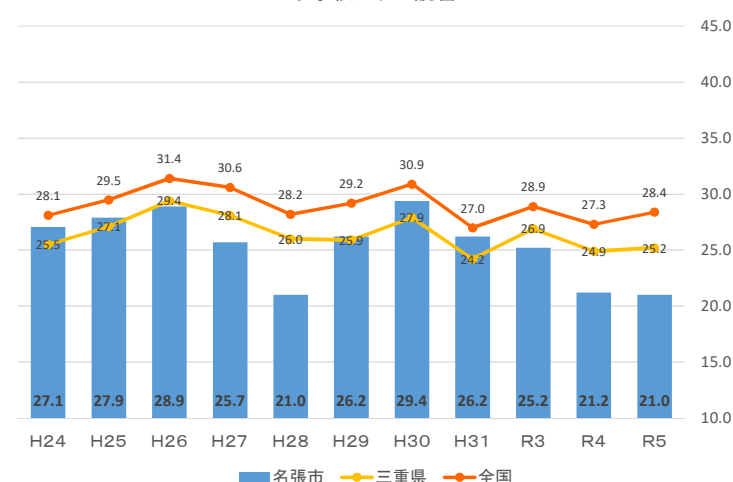


質問項目：1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。(30分以上)※教科書、参考書、漫画、雑誌除く

小学校 平日読書



中学校 平日読書



家庭学習が「1時間以上」と回答した児童生徒の割合が全国平均より低い傾向が続いています。各学校では改善に向けて様々な工夫が行われ、中学校区では小中学校で共通した取組も展開されてきました。このような取組を学校と家庭が共通理解し、協働した取組となるよう、さらに連携を深めていく必要があります。

また、読書時間が「30分以上」の割合は小学校で増加し、三重県平均を上回りました。引き続き、読書活動の充実を図るため、学校では、読書指導の改善・充実を図り、朝読書や読書週間の期間を設けるなど、楽しく、進んで読書活動が行われるように工夫を行うとともに、PTAや学校運営協議会等の学校関係組織ともさらに連携しながら、家庭でも読書に取り組む機会を増やしていく必要があります。

3—② 児童生徒質問紙調査結果と教科の平均正答率との関係<クロス集計>

「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。

ここでは、「児童生徒質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

グラフの見方

<例示>

質問事項

○国語の授業の内容はよく分かりますか。

<グラフ内の数値は(%)です>

同じ質問に対し、
ページの左半分は小学校
右半分は中学校のグラフです。

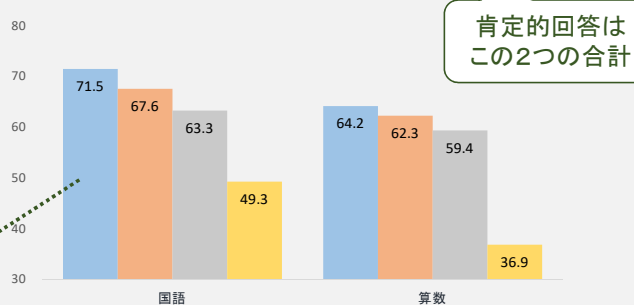
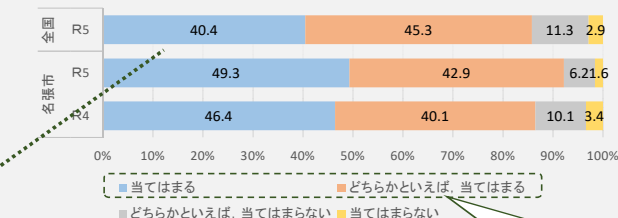
小学校

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢別の割合を、そのまま表しています。R5名張市平均(中段)を、全国平均(上段)、R4名張市平均(下段)とそれぞれ比較することができます。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」(当てはまる)と回答した児童は、
全国で 40.4%
名張市で 49.3% です。

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢と、平均正答率との関係を、クロス集計しています。

右のグラフで、「当てはまる」と回答した児童の、国語の平均正答率は、
名張市で 71.5%です。



肯定的回答はこの2つの合計

「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して、「国語」で見ると、
「当てはまる」と回答した名張市の児童の平均正答率は、71.5%、
「当てはまらない」と回答した名張市の児童の平均正答率は、49.3%で
22.2%の開きがあり、
「国語の授業の内容はよく分かる」と回答している児童ほど、
「国語」の調査問題の正答率も高いということがわかります。

同様に他の調査問題も見ると、「算数」では、27.3%の開きがあり、
「肯定的な回答をしている生徒ほど、平均正答率が高い」という傾向が、顕著に表れています。

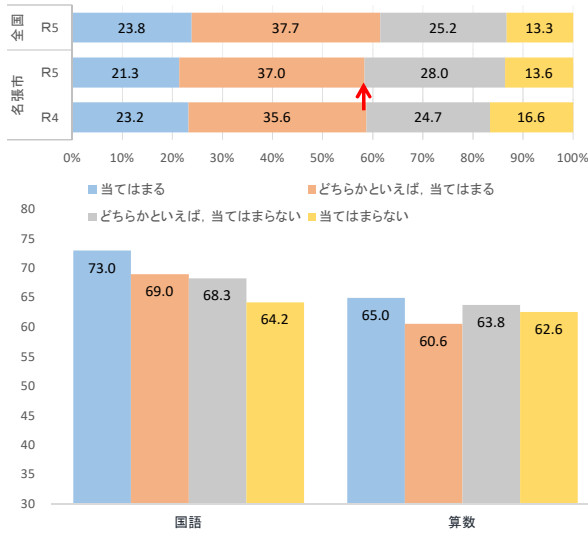
※いずれのグラフにも無回答率は掲載していません。

また、質問によっては、回答項目(時間帯等)が多いため、傾向がわかる回答項目(時間帯)に関してのみ、掲載しています。そのため、合計数値が100%になっていない場合があります。

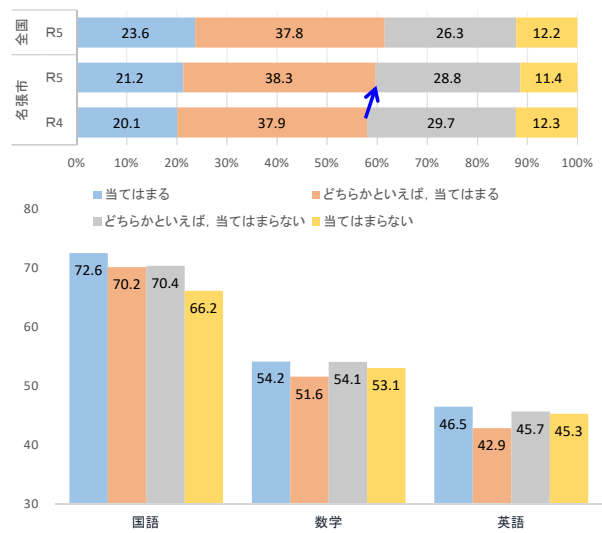
(1) 学校教育に関すること

① 国語の勉強は好きですか。

小学校



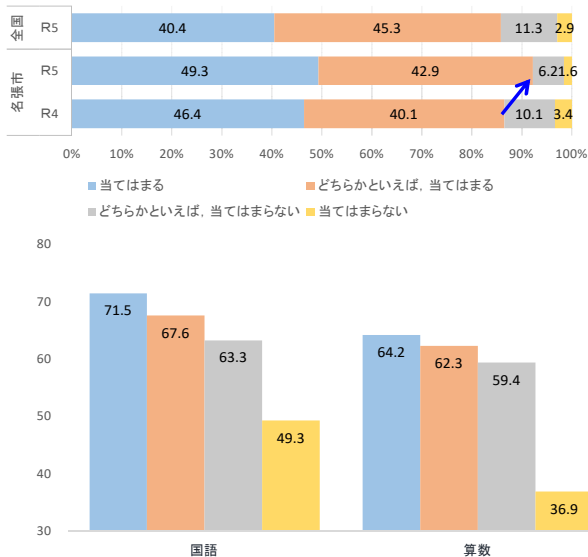
中学校



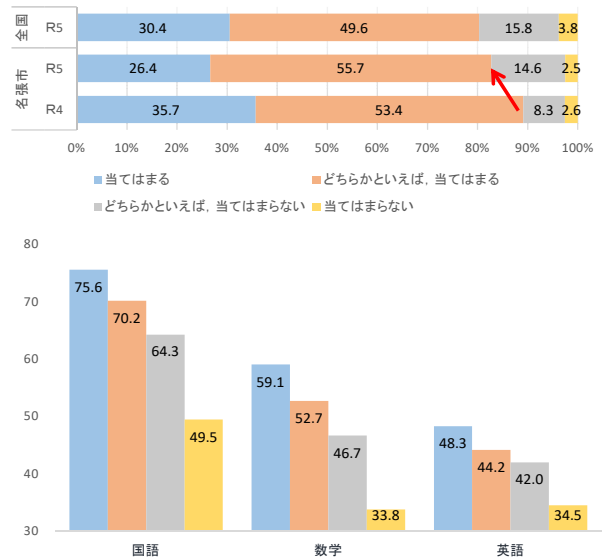
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに低い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は減少し、中学校では増加しています。

② 国語の授業の内容はよくわかりますか。

小学校



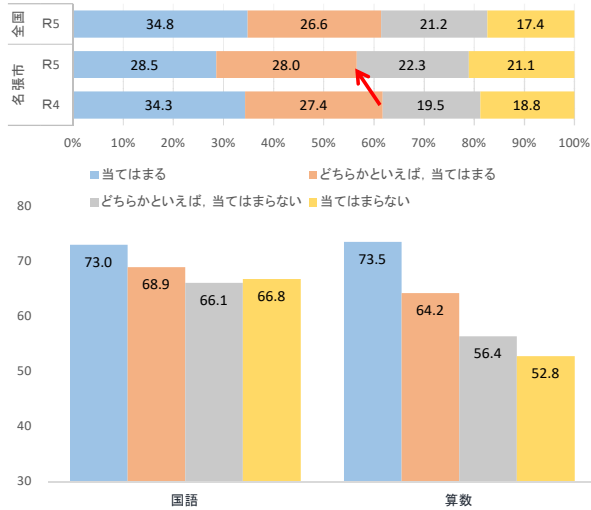
中学校



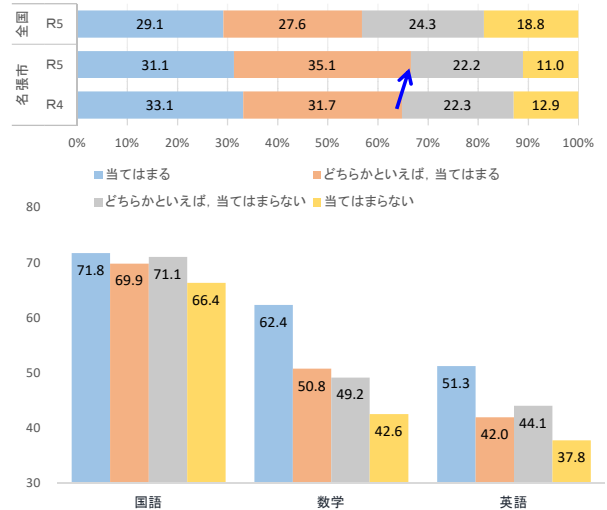
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は増加し、中学校では減少しています。

③算数・数学の勉強は好きですか。

小学校



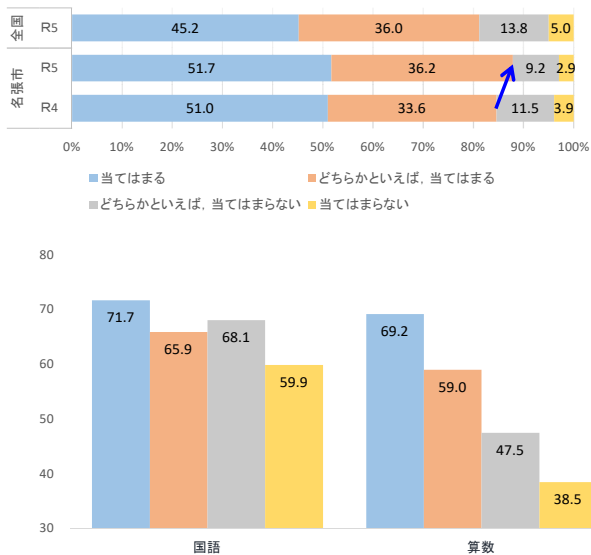
中学校



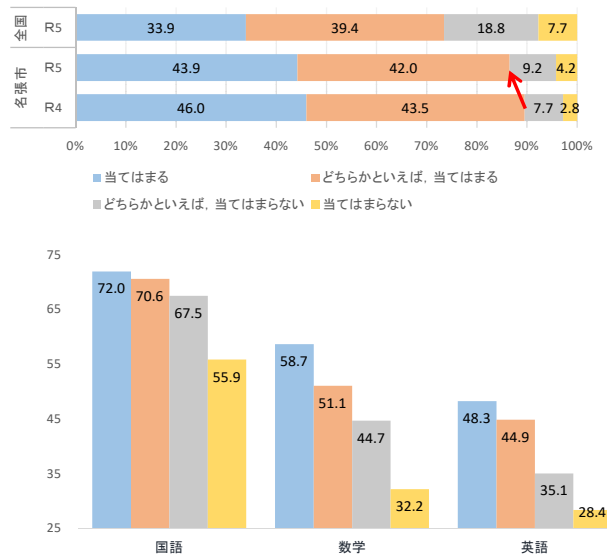
肯定的回答が全国と比べると、小学校は低く、中学校では高い結果が見られます。前回調査と比べると、小学校は減少し、中学校では増加しています。

④算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

小学校



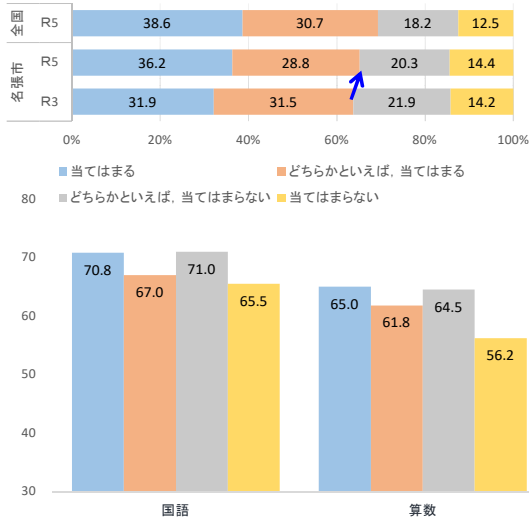
中学校



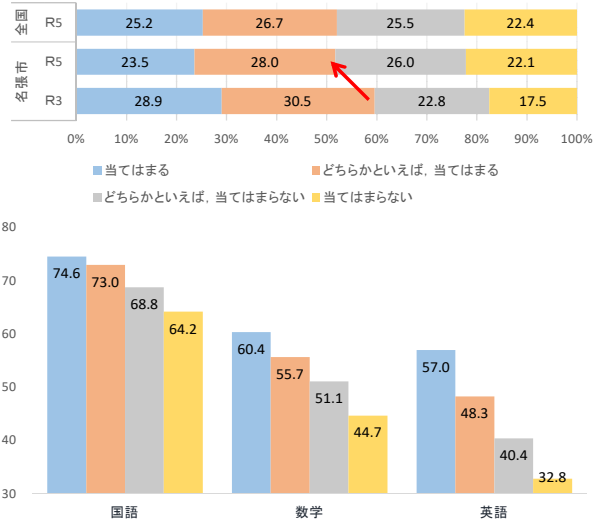
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は増加し、中学校では減少しています。

⑤ 英語の勉強は好きですか。

小学校



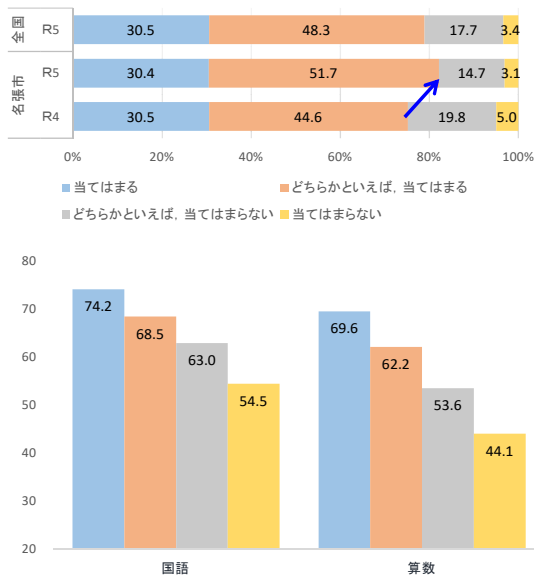
中学校



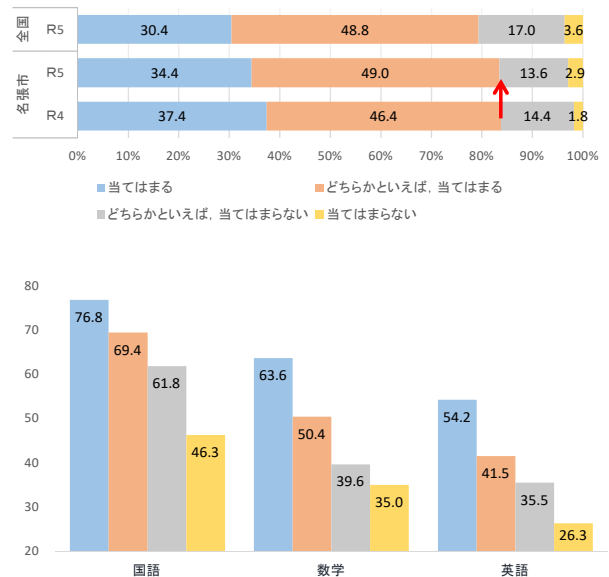
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校とも低い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は増加し、中学では減少しています。

⑥ 5年生（中学1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

小学校



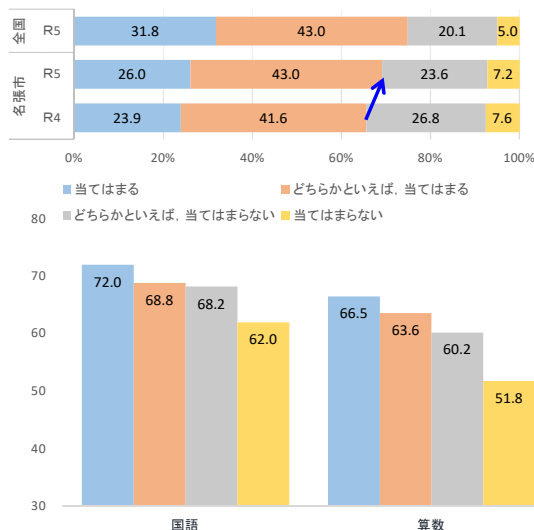
中学校



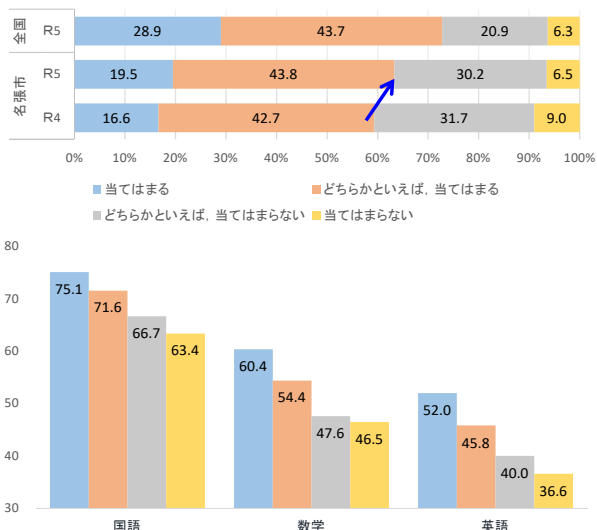
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校とも高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は増加し、中学校では減少しています。

⑦ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

小学校



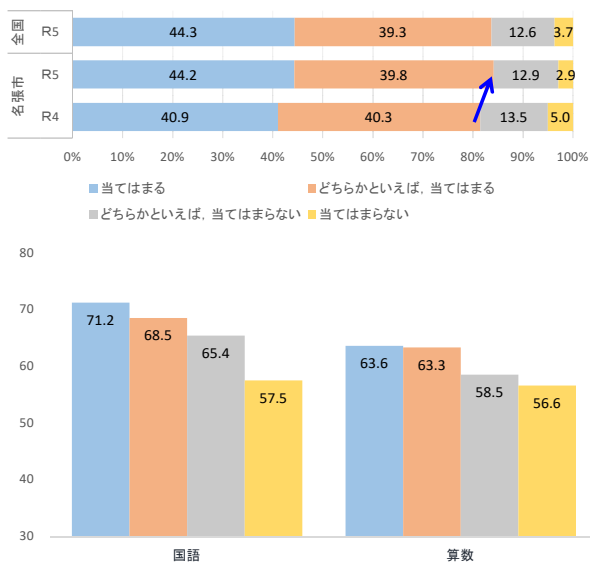
中学校



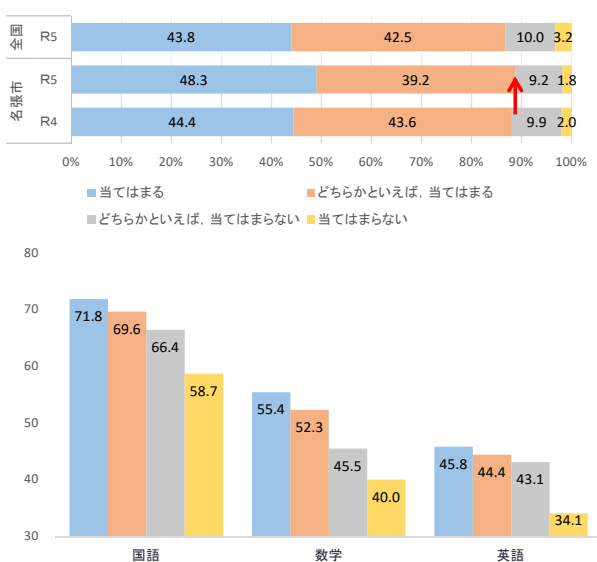
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに低い結果がみられます。前回調査と比べると小・中学校ともに増加しています。

⑧ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

小学校



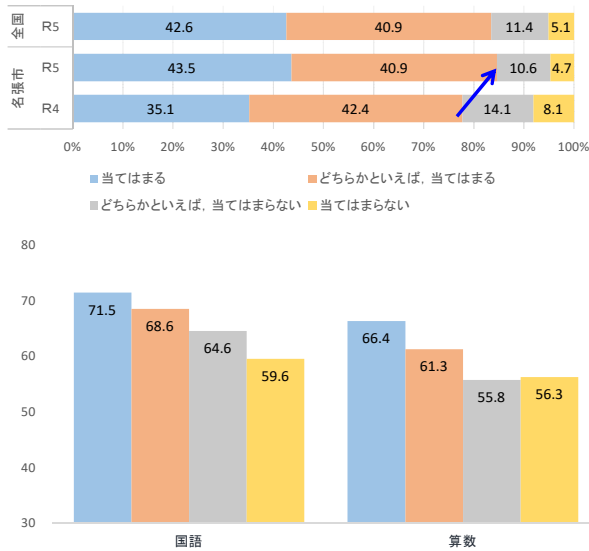
中学校



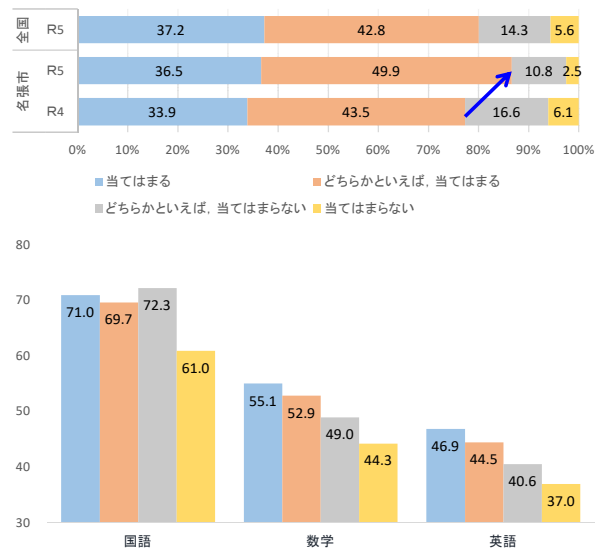
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は増加し、中学校では減少しています。

⑨自分には、よいところがあると思いますか。

小学校



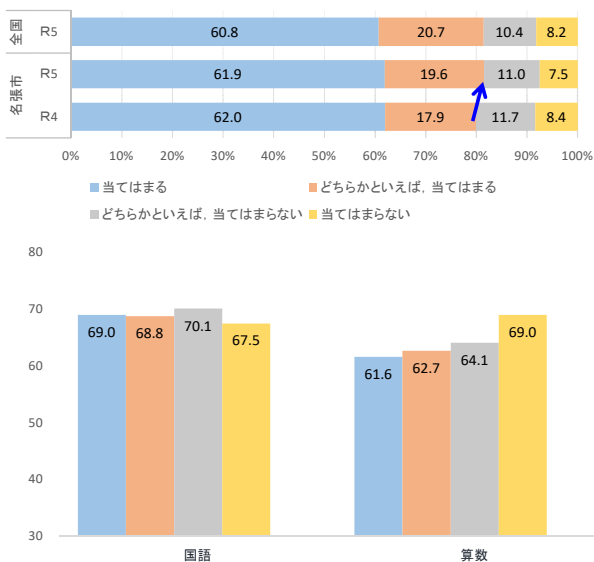
中学校



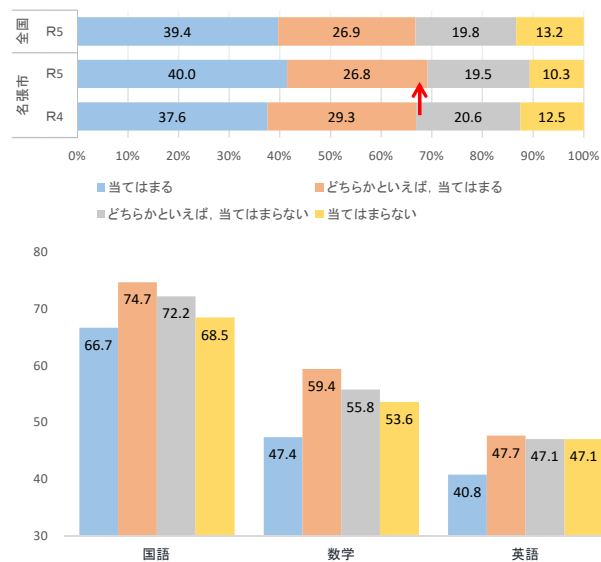
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校ともに増加しています。

⑩将来の夢や目標を持っていますか。

小学校



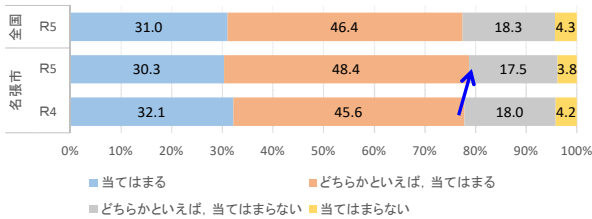
中学校



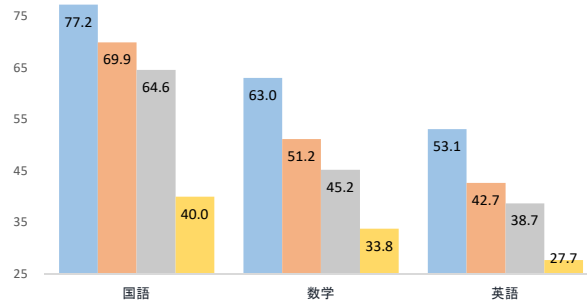
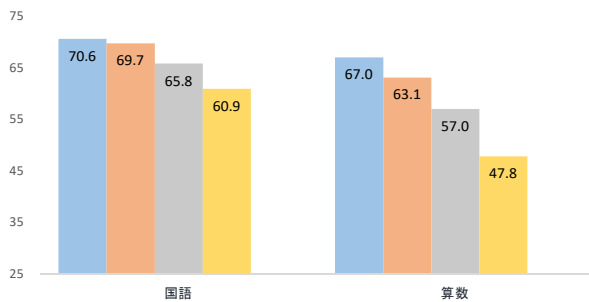
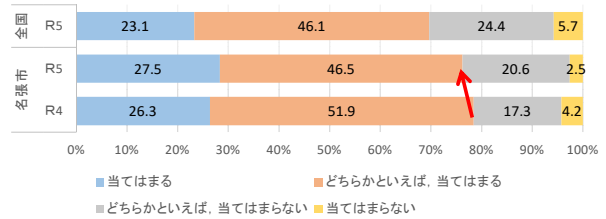
肯定的回答が全国と比べると、小学校は同等で、中学校では高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校で増加し、中学校では減少しています。

⑪学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

小学校



中学校



肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると小学校は増加し、中学校では減少しています。

【学校教育に関する特徴的なこと】

- ・国語、算数・数学、英語の教科に関して、「勉強は好きですか。」の質問は、中学校数学で、肯定的な回答割合が全国平均と比べ高い。「授業の内容はよく分かりますか。」の質問に対しては、肯定的な回答割合が小・中学校の国語、算数・数学で全国平均より高い。
- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問に対して、小・中学校とも、肯定的な回答の割合が全国平均と比べ高い。
- ・道徳に関しては、「自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいるか。」の質問に対して、肯定的な回答割合が小・中学校とも全国平均と比べ高い。
- ・「自分にはよいところがある」の質問に対して肯定的な回答割合が小・中学校とも全国平均と比べ高く、前回調査と比べても増加している。

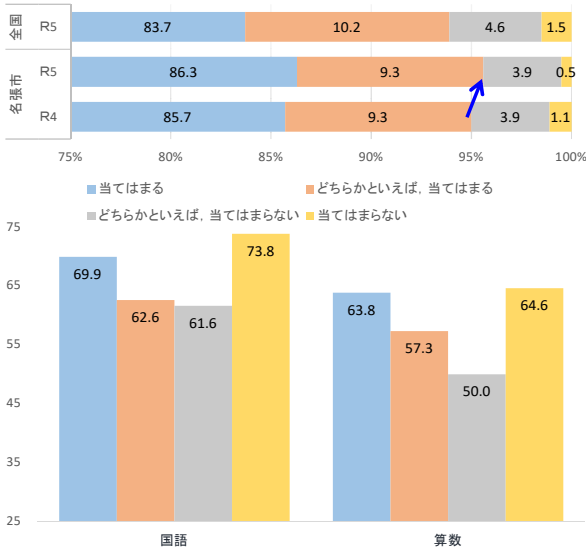
各教科について、本市は肯定的な回答割合が、すべての教科で70%を越え、全国との比較においても高い結果がみられます。しかし、本市の結果からは、「よく分かる」という回答が全国を上回っていても、平均正答率は全国より低い調査項目があります。また、よく分からないと回答している児童生徒もいることから、子どもたちが分かる喜び、学ぶ楽しさをより一層実感できる授業づくりに努め、主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図っていく必要があります。

また、「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、小・中学校とも、肯定的な回答割合は全国平均よりも高く、前回調査よりも増加しており、よい傾向がみられます。さらに高めていくために、学校の教育活動全体を通じて、すべての児童生徒に対し、自己肯定感を高め、キャリア発達を促すキャリア教育等の充実を図る必要があります。

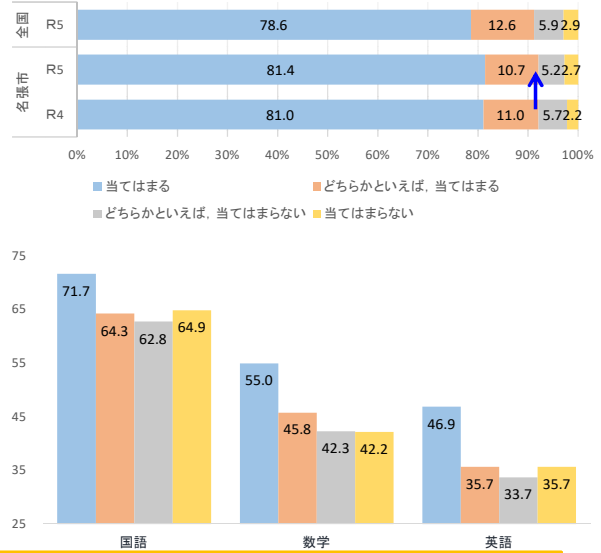
(2) 生活習慣に関すること

①朝食を毎日食べていますか。

小学校



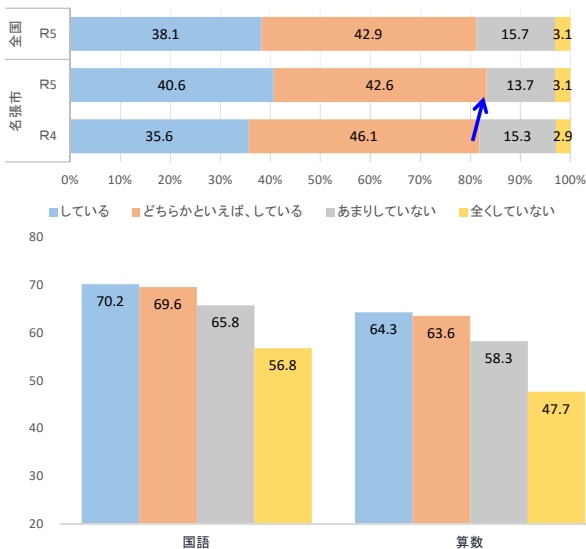
中学校



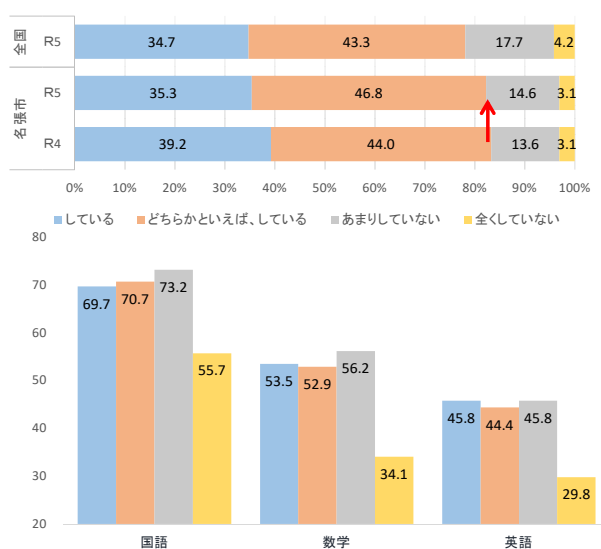
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校ともに増加しています。

②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

小学校



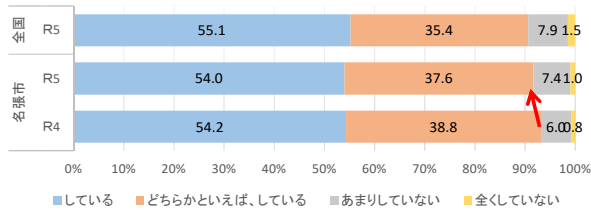
中学校



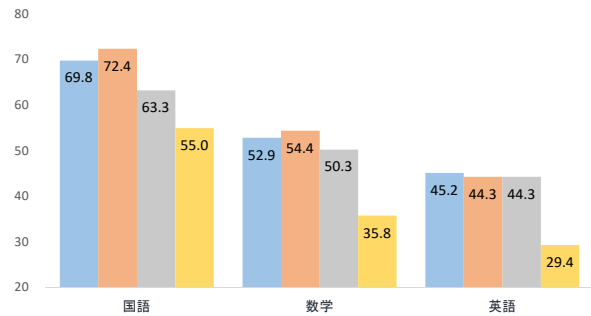
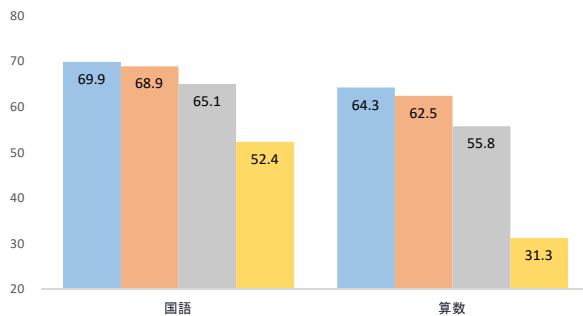
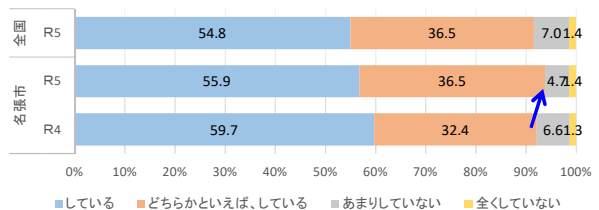
肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は増加し、中学校では減少しています。

③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

小学校



中学校



肯定的回答が全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小学校は減少し、中学校では増加しています。

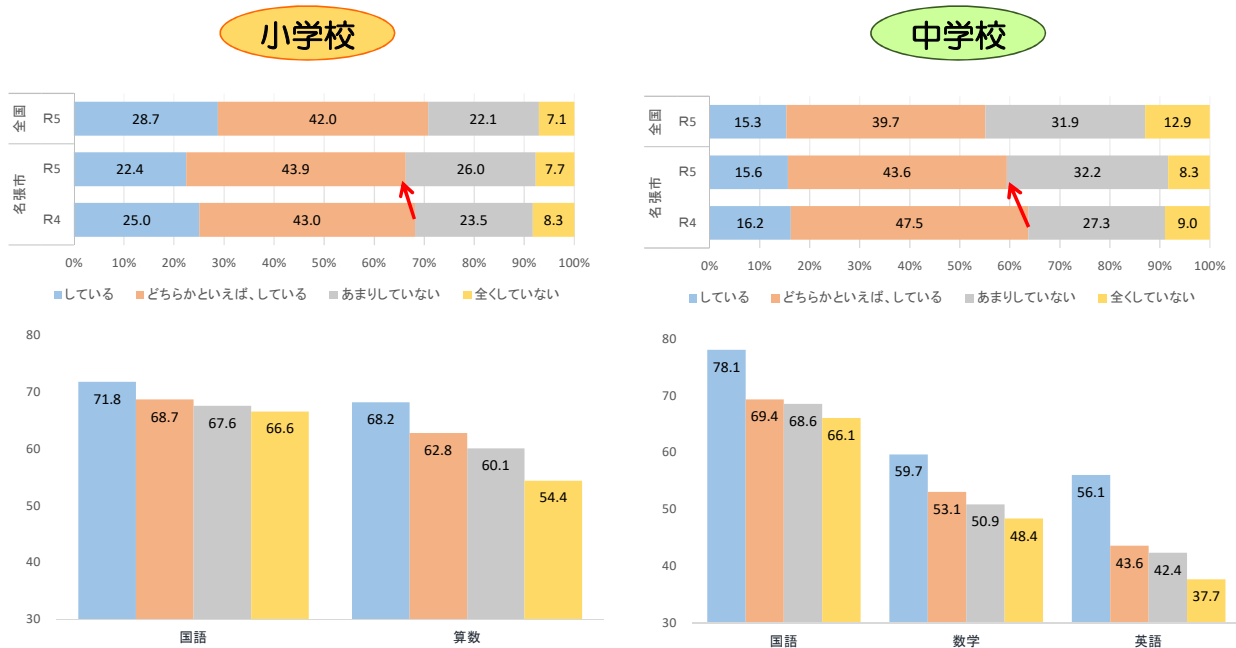
【生活習慣で特徴的なこと】

- ・「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して、肯定的な回答割合は、小・中学校ともに全国平均より高い。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小・中学校とも全国平均より高い。

「同じくらいの時刻に寝ていますか。起きていますか。」のクロス集計をみると、「している」と回答した児童生徒と、「全くしていない」と回答した児童生徒との各教科の平均正答率を比較すると、小中学校とも大きな差が見られます。児童生徒の健やかな成長のためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。こうした生活習慣を身に付けていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところです。学校と家庭がこれまで以上に連携を強化し、生活習慣の確立や生活リズムの向上を学習意欲の向上につなげる必要があります。

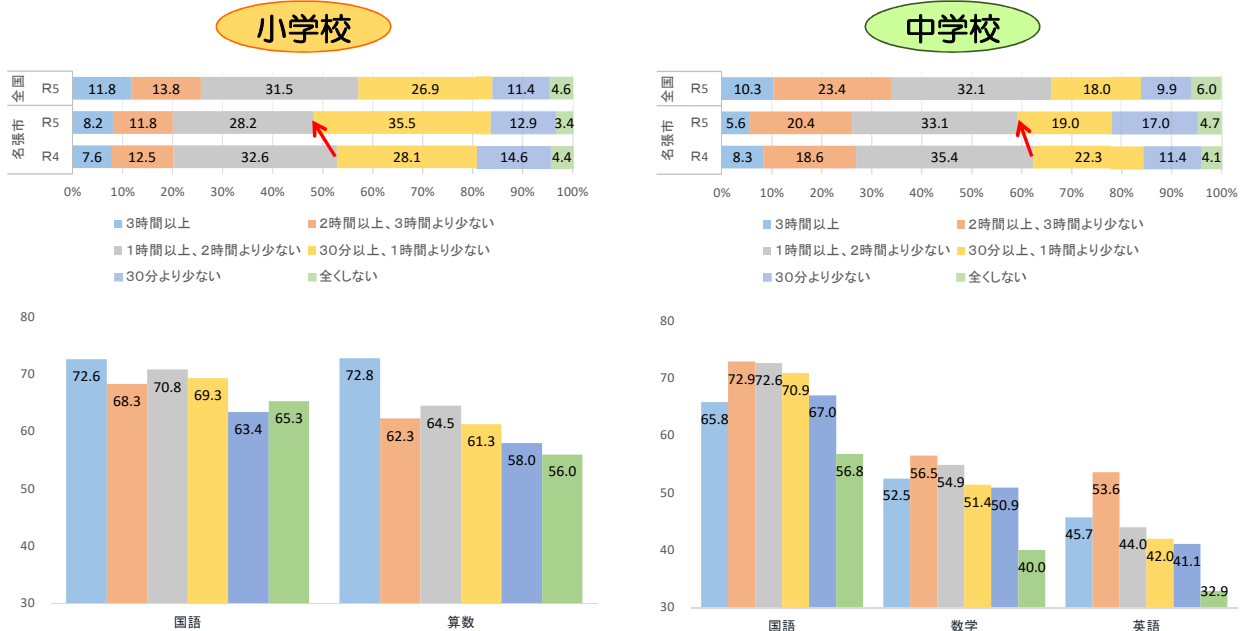
(3) 学習習慣等に関すること

①家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



肯定的回答が、全国と比べると小学校は低く、中学校では高い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校とも減少しています。

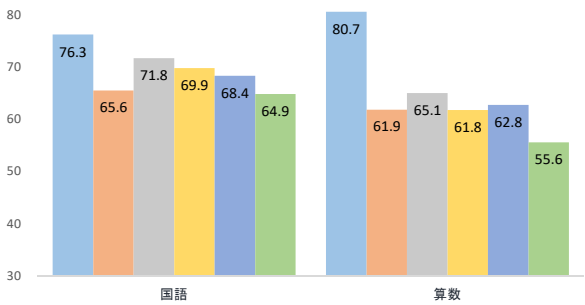
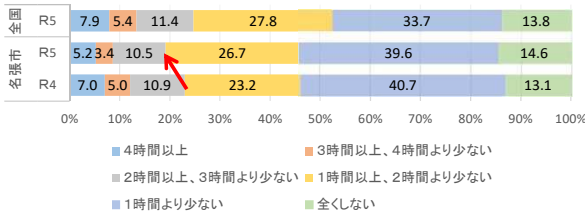
②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



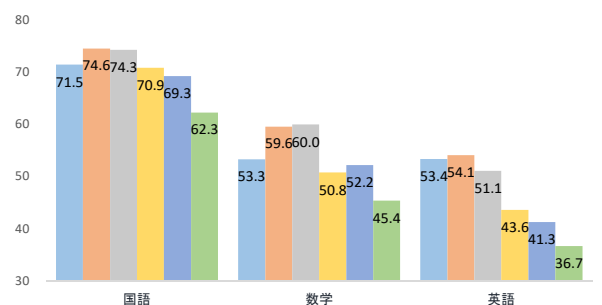
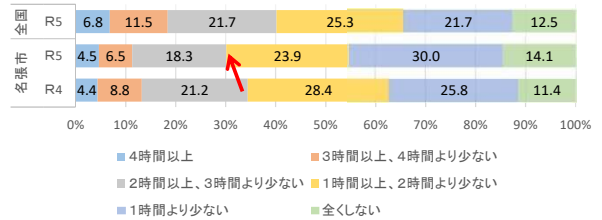
全国より低い傾向が続いています。前回調査と比べると、学習時間が（1時間以上）と回答した児童生徒の割合が、小・中学校ともに減少しています。

③土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学校



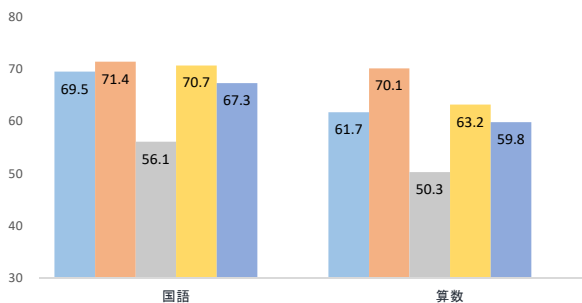
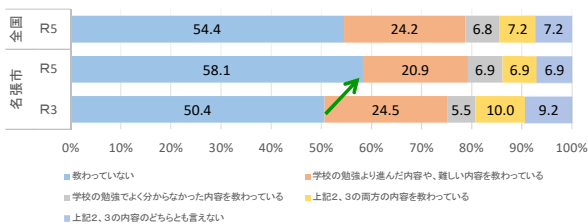
中学校



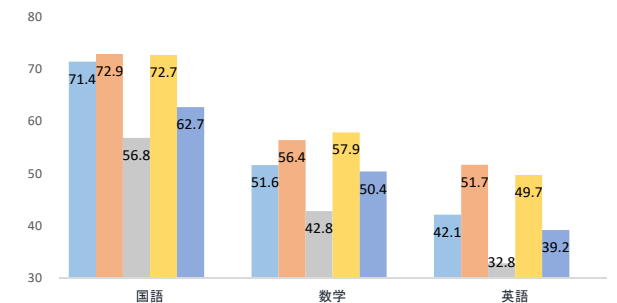
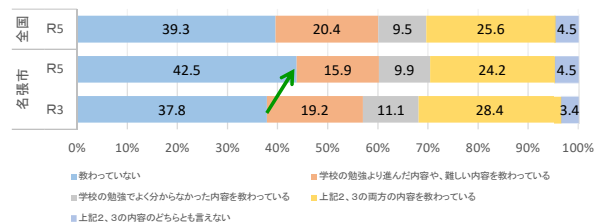
全国より低い傾向が続いています。前回調査と比べると、学習時間が（1時間以上）と回答した児童生徒の割合が、小・中学校ともに減少しています。

④学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）

小学校



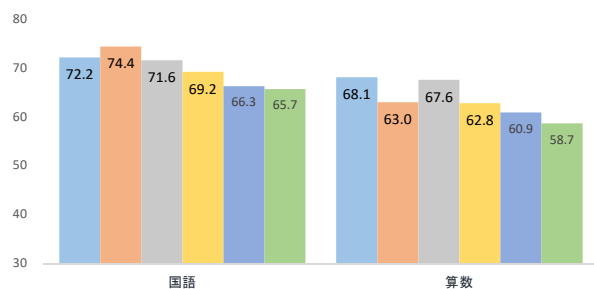
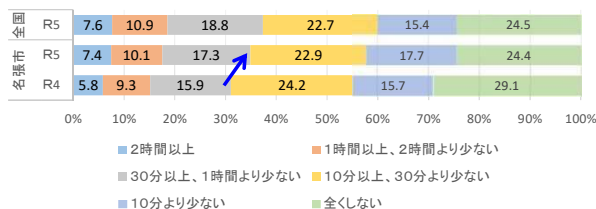
中学校



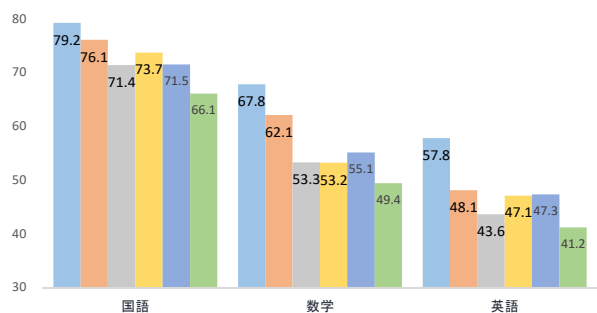
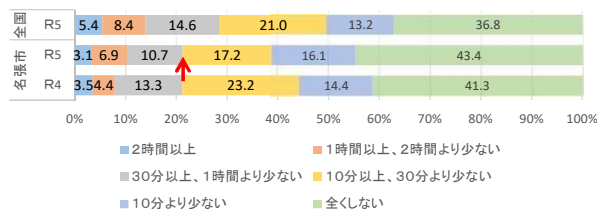
全国と比べると小中学校ともに、「教わっていない」の回答が高い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校ともに増加しています。

⑤学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

小学校



中学校



👉 全国より低い傾向が続いています。前回調査と比べると、読書時間が（30分以上）と回答した児童生徒の割合が、小学校は増加し、中学校では減少しています。

【学習習慣等について特徴的なこと】

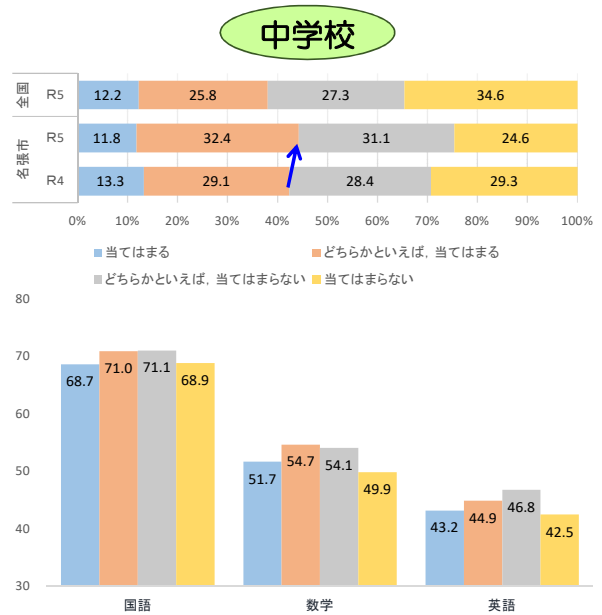
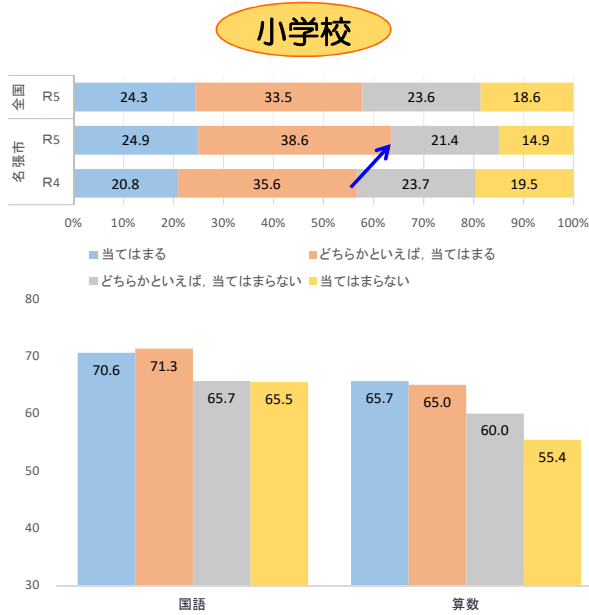
- ・「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問に対する肯定的な回答が、中学校では全国平均より高い。
- ・平日の家庭学習の時間について、「2時間以上」学習をする割合は、小・中学校では全国平均より低い。
- ・読書する時間について、「30分以上」する割合は、小学校では増加し、中学校では減少している。

👉 本市の児童生徒の家庭における学習時間が、平日や休日とも全国平均に比べて短いという結果がみられます。各学校や中学校区では、改善に向けて様々な工夫が行われています。学習習慣等の定着を図るため、中学校の定期テストにあわせて、児童生徒が有効的な時間の使い方について考え、行動化する取組（自主学習、メディアに触れる機会を減らす等）も展開されてきました。学校と家庭が協働した取組となるよう、さらに連携を深めていく必要があります。

また、読書時間が「30分以上」の割合は小学校で増加し、三重県平均を上回りました。引き続き、読書活動の充実を図るため、学校では、読書指導の改善・充実を図り、朝読書や読書週間の期間を設けるなど、楽しく、進んで読書活動が行われるように工夫を行うとともに、PTAや学校運営協議会等の学校関係組織ともさらに連携しながら、家庭でも読書に取り組む機会を増やしていく必要があります。

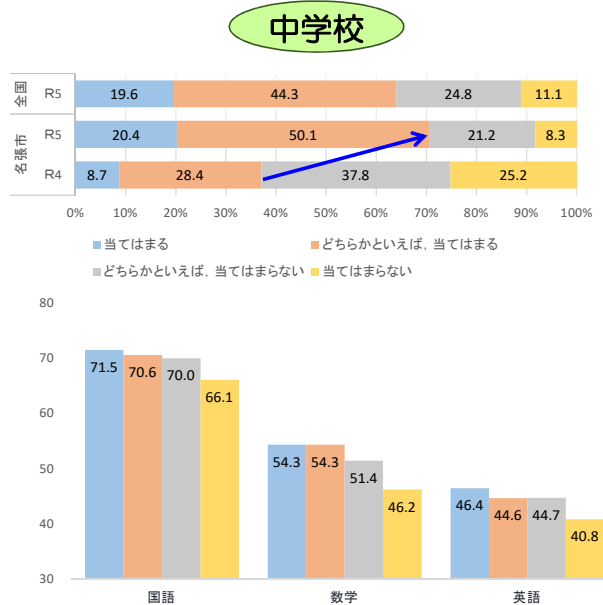
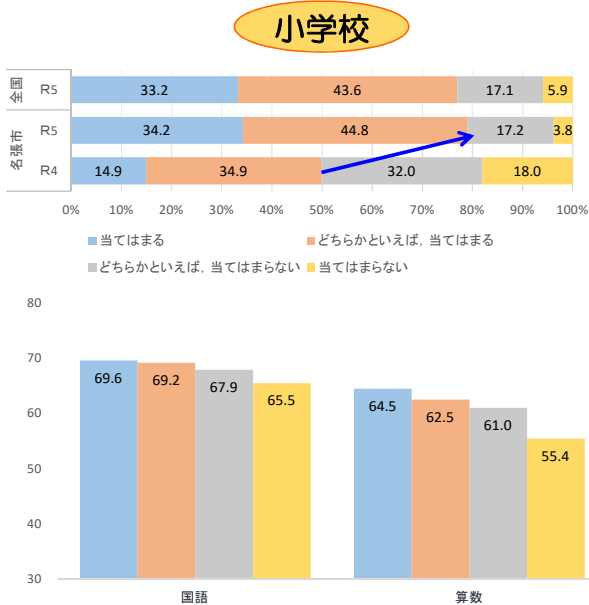
(4) 地域貢献・社会貢献に関すること

①今住んでいる地域の行事に参加していますか。



肯定的回答が、全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校とも増加しています。

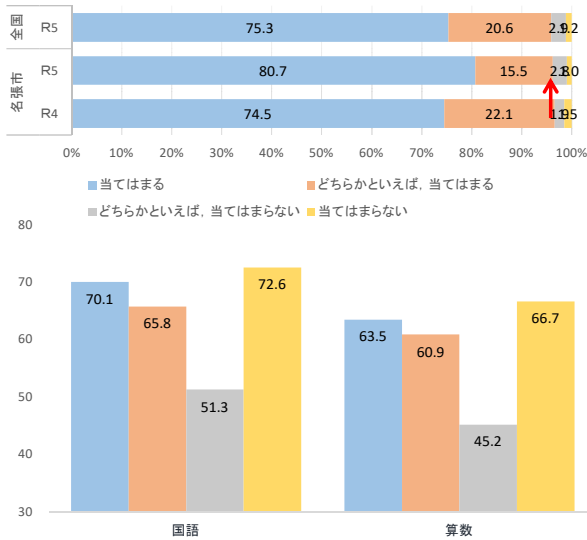
②地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。 (昨年：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか)



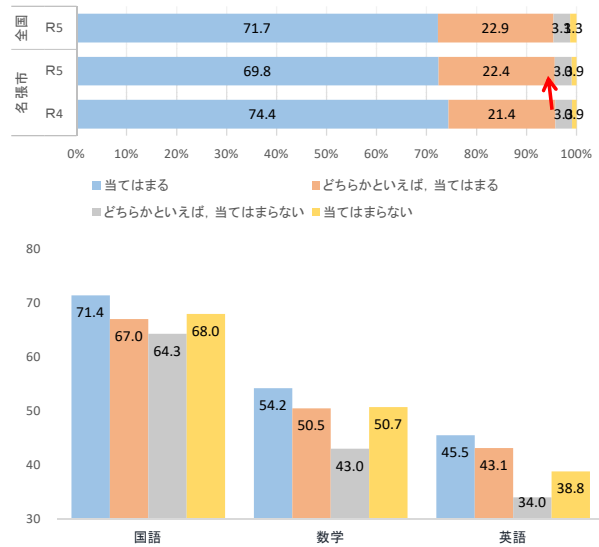
肯定的回答が、全国と比べると、小・中学校ともに高い結果がみられます。前回調査と比べると小・中学校ともに増加しています。

③人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

小学校



中学校



肯定的回答が、全国と比べると、小学校は高く、中学校では低い結果がみられます。前回調査と比べると、小・中学校ともに減少しています。

【地域貢献・社会貢献について特徴的なこと】

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小・中学校とも全国より高い。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」という質問に対する肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小・中学校とも全国より高い。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小学校は全国より高い。

地域の行事への参加について、肯定的な回答が小・中学校ともに全国平均を上回る結果でした。また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う子どもが前回調査より増加していることから、ふるさと学習「なばり学」等により、自分の住んでいるふるさとへの興味・関心が高まっています。

また、本市の子どもたちの貢献心は小・中学校ともに90パーセントを超え、よい傾向が続いています。

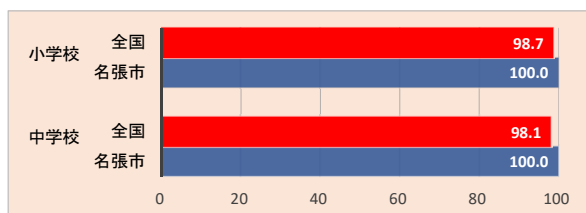
4 学校質問紙調査結果の特徴的な傾向と分析

「学校質問紙調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。

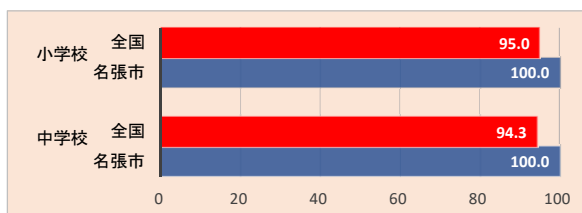
ここでは、「学校質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

※質問項目の後に（ ）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（%）

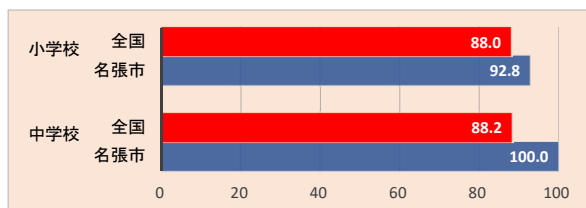
①調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



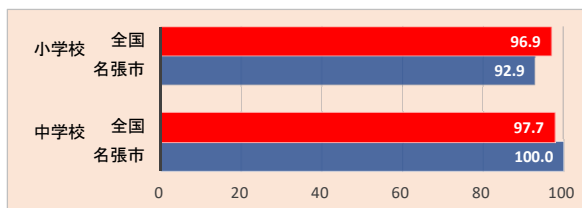
②ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいますか



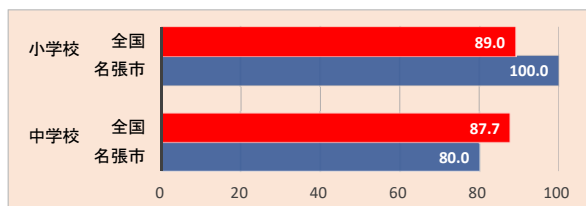
③調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



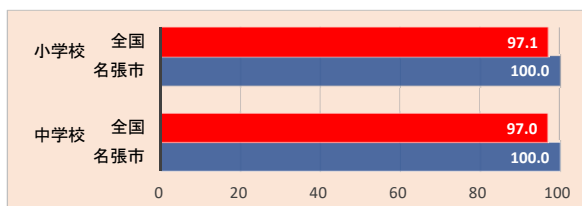
④調査対象学年の児童（生徒）に対して、特別の教科 道徳において、児童（生徒）自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



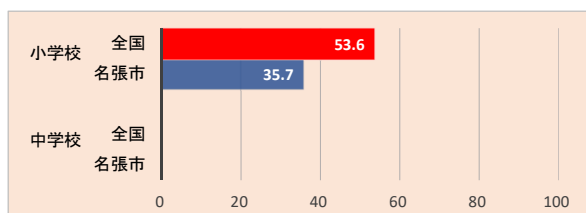
⑤調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか



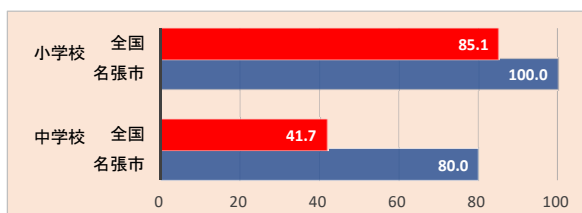
⑥調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童（生徒）がそのわけを理解できるように工夫していましたか



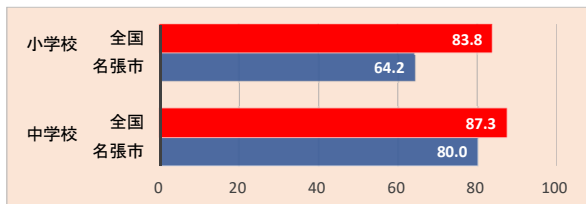
⑦調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、教科担任制を実施していましたか（小学校のみ）



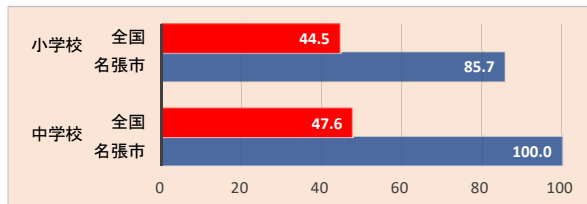
⑧調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（週3回以上）



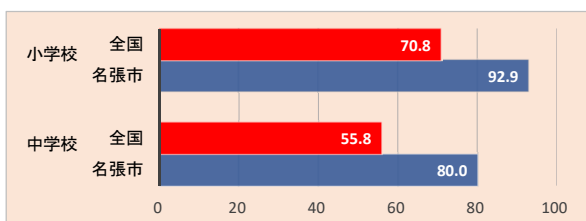
⑨調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか



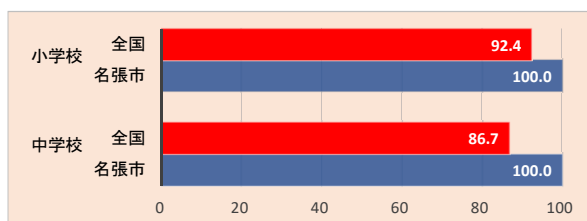
⑩令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校（中学校）と成果や課題を共有しましたか



⑪地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか



⑫調査対象学年の児童（生徒）の保護者に対して、前年度までに、児童（生徒）の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか



※質問項目の後に（ ）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（%）

【学校質問紙調査について特徴的なこと】

- ・教育活動全体を通じて、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する取組が行われている。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む中で、習得・活用・探究という学びの過程を見通した指導方法の改善が行われている。
- ・教科担任制については、全国との差が見られる。本市では今年度から小学校において教科担任制を導入している。実施教科については各学校の実情に応じて行っており、「理科」の教科に限定された質問では数値は低くなる。
- ・ICT機器を、授業でどの程度活用できているかについては、小学校で100パーセント、中学校で80パーセントであり、全国平均を大きく上回っている。今後は、ICT機器等を効果的に活用した授業改善を進めていく必要がある。
- ・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」では、昨年度に引き続き、小中学校ともに全国を下回っており、日常的な言語活動の充実を図っていく必要がある。
- ・すべての中学校区において小中一貫教育が実施されていることもあり、近隣の小学校（中学校）と教育目標を共有する取組や本調査の分析結果（成果や課題）の共有等については、全国より大幅に進んでいる。
- ・コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かした保護者や地域の人々との協働による活動は、全国平均を上回り、高い数値を示している。各学校において、学校運営協議会が核となり、学校・保護者・地域住民が、地域の子どもたちの学びと育ちに関わる当事者として、「学校運営」「学校支援」等において、さらに連携・協働し、取組を充実させていく必要がある。
- ・家庭学習の働きかけについては、各学校、又は中学校区において様々な工夫を行っており、小中学校とも100パーセントであり、全国を上回っている。しかし、実際の家庭学習の時間では、小中学校とも全国を下回っている。実効性のある取組となるよう、分析・検証し、改善を図る必要がある。

5 成果、課題と今後の取組について

名張市教育委員会では、令和3年度から「第二次名張市子ども教育ビジョン後期計画（令和3年3月策定）に基づき、「夢をはぐくみ 心豊かで 元気な 『ばりっ子』」をめざす子ども像に、さまざまな取組を進めているところです。

子どもたちの確かな学力の育成をめざし、子どもの心理的・身体的な発達段階に応じたきめ細やかな指導・支援を行うことにより、基礎的・基本的な「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育む取組を行っています。

全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことを目的としています。

本教育委員会や各学校では、本調査結果から子どもたちの学力や学習状況を把握・分析、検証し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に取り組み、子どもたちにとってわかる授業づくりを進めることにより、子どもたちの学習意欲と学力の向上をめざすとともに、子どもたちの生きる力を育て、中学卒業時には十分な学力を培うことをめざしています。

これまでの本市の小中学校の取組の結果、本年度の調査で以下のような成果が現われています。

- 国語について、小学校では、「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えること」などの「話すこと・聞くこと」の領域、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」などの「情報の扱い方に関する事項」において強みが見られました。中学校では、「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめること」などの「話すこと・聞くこと」の領域において強みがみられました。

算数・数学について、小学校では「変化と関係」「データの活用」の領域、中学校では、「数と式」「データの活用」の領域において、強みがみられました。

- 児童生徒質問紙調査において、国語、算数・数学、英語の「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対し肯定的な回答を行った児童生徒の割合は、70パーセントを越え、小中学校とも全国平均を上回りました。授業改善に関係する質問項目にも改善がみられ、児童生徒の学習意欲の向上、教職員の指導改善が進んでいる成果といえます。

また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」などの自己有用感等の質問項目については、小中学校とも経年的に全国より高い傾向がみられ、前回調査より上昇している項目が多く、児童生徒と教職員の良好な関係性が伺えます。

さらに、ICTの活用についても、全国より大幅に活用状況が高い結果が見られ、強みといえます。

しかし、同時に以下のような課題もあります。

- 国語において、小学校では、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するなど「書くこと」の領域、中学校では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるなどの「読むこと」の領域について正答率が低く、弱みが見られます。

- 算数・数学において、小学校では、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を記述するなどの「図形」の領域、中学校でも、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明するなどの「図形」の領域に弱みが見られます。

- 英語では、目的に応じて英語を聞き、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るなどの「聞くこと」の領域、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くなどの「書くこと」の領域に弱みが見られます。
- 家庭生活では、学習時間が短い現状が本年度も見られます。また、読書習慣は小学校で改善傾向がみられますが、中学校では読書時間が依然として短い状況です。自ら意欲的に家庭学習に取り組もうとする態度にまで高め、自律的学習へと結びつけるための工夫や手立てが求められます。

このような課題克服のため、「第二次名張市子ども教育ビジョン後期計画」の方針に基づき、さらなる学力の向上に向けた以下の取組を進めます。

<学習指導要領を踏まえた授業改善と教職員の指導力の向上>

全国学力・学習状況調査の調査問題は、学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討され、作成されています。結果を分析し、すべての教員による指導方法の改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上につながる授業改善につなげていく必要があります。学習指導要領を踏まえ、習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡しなが、子どもたちの資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るとともに、引き続き、学力向上に向けた効果的な指導方法を全教職員で共有し、『魅力ある学校づくり』をベースにして、『学力向上3本の矢』（めあての明示と振り返りのある授業、言語活動の充実、充実した家庭学習）や『ユニバーサルデザイン』の視点を意識するなど、わかる授業づくりのための授業改善を進めていきます。

また、本年度より、すべての小学校において教科担任制を導入しており、対象教科や学年については、各学校の実情に合わせて実施しています。小学校教員の専門性を高め、授業改善をめざすなかで、中学校とともに「学びの質」にこだわり、県教育委員会とも連携を図りながら、指導主事を招聘した研修を行うなど、学習指導要領を踏まえた授業改善を進めていきます。

さらに、市教育委員会の指導主事が学校を訪問し、学力向上に向けた各学校の今後の取組の聞き取りや視点を持った授業参観等を実施し、具体的な指導・助言をするなどの学校支援を行います。また、本調査結果でみられた課題の解決や授業改善を目指した研修を実施することで、教職員の資質や指導力の向上を図ります。

<小中一貫教育の推進>

「名張市子ども教育ビジョン（後期計画）」では、「小中一貫教育の推進」を重点取組の一つとしており、グランドデザイン及び推進カリキュラムに基づき、義務教育9年間の系統性・連続性を確保した学習指導の充実を図ることで、学力向上をめざすこととしています。全国学力・学習状況調査の分析結果について、該当学年・教科担当者だけでなく、全校体制での分析によって自校の強みと弱みの把握に努めます。そして、校内はもとより、中学校区の教職員が成果と課題を共有し、すべての教職員が9年間の学習等について具体的なイメージをもち、当該学年における指導の充実や指導方法の改善を図るとともに、校種の枠を越えた指導・教育を行うことにより、子どもたちの学びと育ちを保障し、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育んでいきます。

<コミュニティ・スクールの推進・充実>

家庭学習の定着、読書の習慣化をはじめ、生活習慣や地域貢献、自己有用感等の改善に向け、各学校での取組とともに、各中学校区でも小中学校で共通した取組が展開されてきました。このような取組を学校と家庭が共通理解し、協働した取組となるよう、PTAや学校運営協議会等の学校関係組織とさらに連携・協働していきます。

